

第3次 加西市食育推進計画



食を楽しむ つながる
笑顔と健幸のまち“かさい”
～みんなで広げる実践の環～



令和5年
加西市

目 次

第 1 章 計画の策定にあたって

1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	2

第 2 章 加西市の食をめぐる現状と課題

1	加西市の状況	3
2	第 2 次計画の評価	8
3	加西市の食育に関わる主な課題	12

第 3 章 計画の基本的な考え方

1	基本理念	13
2	計画のスローガン	14
3	計画の視点	14

第 4 章 食育の推進に向けた具体的な展開

1	施策体系	16
2	施策の展開	17
	施策領域 1 若い世代を中心とした食育の推進	17
	施策領域 2 健やかな暮らしを支える食生活の実践	20
	施策領域 3 食を通じたつながりづくり	23
	施策領域 4 地産地消の推進	26
	施策領域 5 SDGs と連動した食育	28

第 5 章 計画の進捗管理

1	計画の推進体制	30
2	数値目標	31

資料編

1	策定経過	32
2	第 3 次加西市食育推進計画策定委員会設置要綱	33
3	第 3 次加西市食育推進計画策定委員会委員名簿	35
4	加西市「食育」に関する意識調査結果	36

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

「食」は、私たちの生活の基本となるものであり、健康で心豊かな暮らしを実現するうえで、重要な役割を担っています。健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることは、健やかなからだをつくり、豊かな心を育みます。

しかし近年、人々のライフスタイルや食に関する価値観・選択肢の多様化に伴い、食生活が豊かになる一方で、食習慣の乱れや栄養の偏り、肥満や生活習慣病、若い女性のやせ、孤食など、食を取り巻くさまざまな課題が見受けられます。

国では、「食育」を国民運動として推進していくため、平成17年6月に食育基本法を制定し、翌年「食育推進基本計画」が策定されました。平成28年には「第3次食育推進基本計画」、そして令和3年には「第4次食育推進基本計画」が策定され、①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、②持続可能な食を支える食育の推進、③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進が重点事項として定められています。

また、兵庫県においても、令和4年3月に「食育推進計画（第4次）」が策定され、「食で育む 元気なひょうご “実践の「わ」を広げよう”」をキャッチフレーズに、持続可能な食に必要な、「人の輪（わ）、和食文化の和（わ）、環境の輪（わ）」の3つの「わ」を支える食育の実践を推進しています。

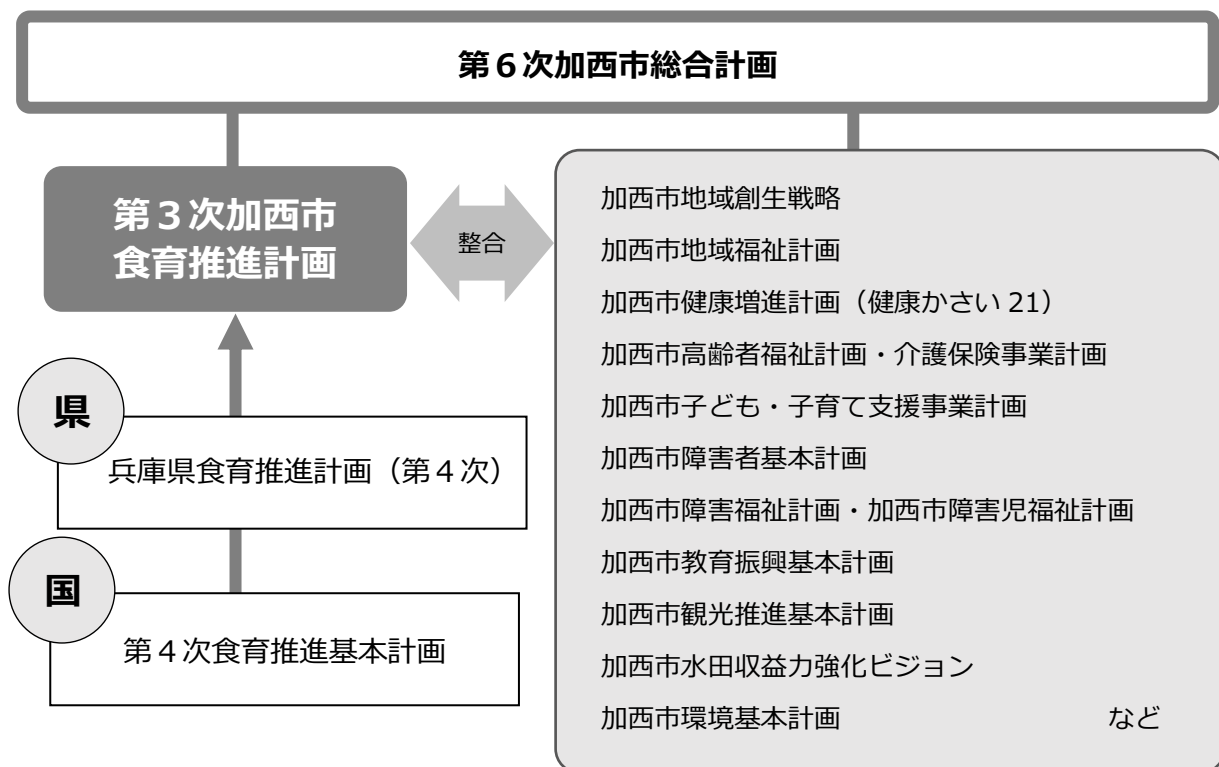
こうしたなか、加西市では平成30年に「第2次加西市食育推進計画」（以下、「第2次計画」という）を策定し、食育に関する市内団体の連携強化、郷土料理の普及、楽しく学べる食育の推進など、さまざまな方法で食育を推進してきました。

このたび、第2次計画の計画期間が終了することに伴い、第2次計画の評価を踏まえ、市民一人ひとりが食への理解を深めながら健全な食生活を実現することで、生涯健康で豊かに暮らせる加西市を目指すため、新たに「第3次加西市食育推進計画」（以下、「本計画」という）を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第18条に基づく「市町村食育推進計画」として策定します。加えて、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律（6次産業化・地産地消法）」第41条第1項に基づく「地域の農林水産物の利用の促進についての計画（地産地消促進計画）」の内容を包含するものです。

また、本計画は国・県計画の内容を踏まえるとともに、上位計画となる「加西市総合計画」をはじめ、「健康かさい21」や各種関連計画との整合・調和を図りながら推進します。



3 計画の期間

本計画の計画期間は、令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）の5年間とします。なお、社会情勢の変化等によって見直しが必要となった場合には、計画期間内であっても適宜内容の見直しを図ることとします。

第2章 加西市の食をめぐる現状と課題

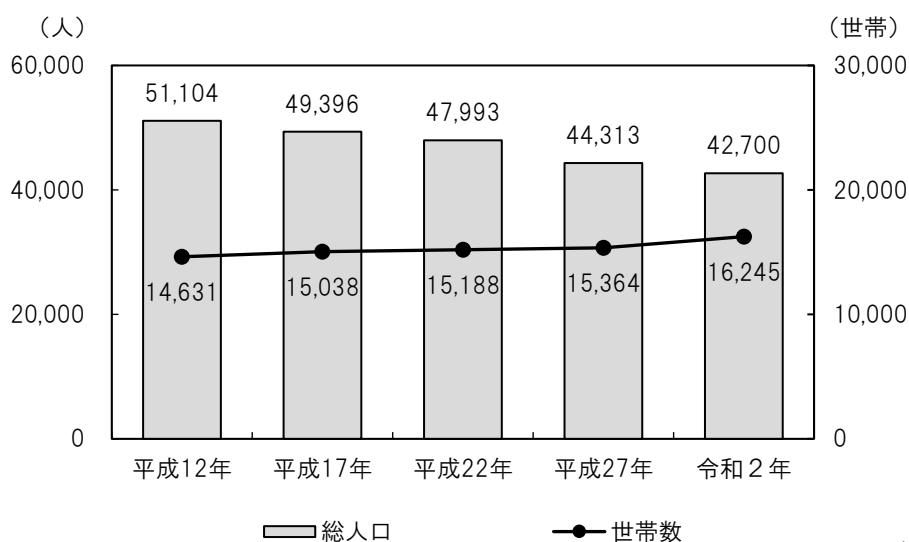
1 加西市の状況

(1) 人口・世帯の状況

本市の人口は、減少傾向となっており、令和2年では42,700人となっています。一方、世帯数は増加傾向で、令和2年では16,245世帯となっています。

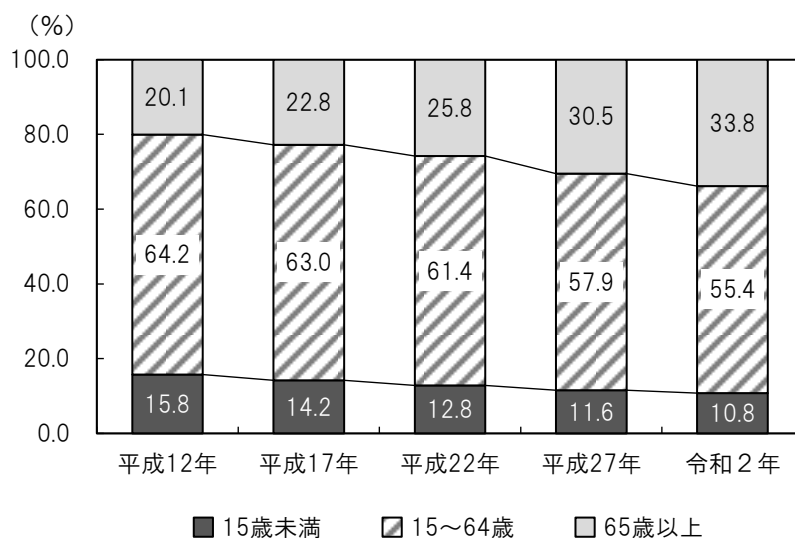
年齢3区分別の人口構成割合は、15歳未満、15～64歳は年々減少しており、65歳以上は増加しています。令和2年の高齢化率（65歳以上の割合）は33.8%となっています。

■ 総人口と世帯数の推移



資料：国勢調査

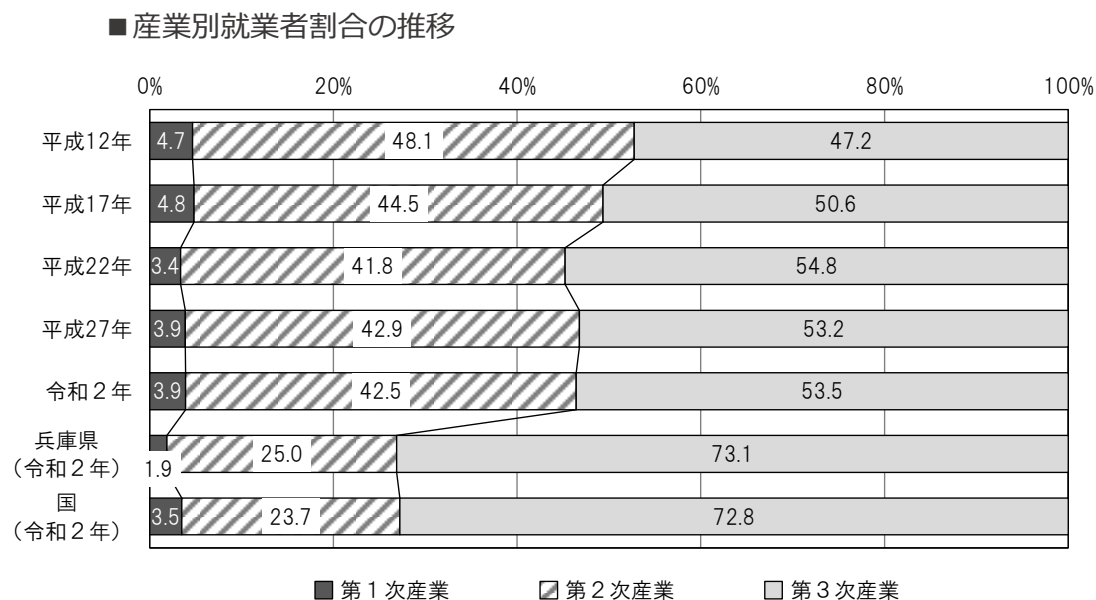
■ 人口構成割合の推移



資料：国勢調査

(2) 産業の状況

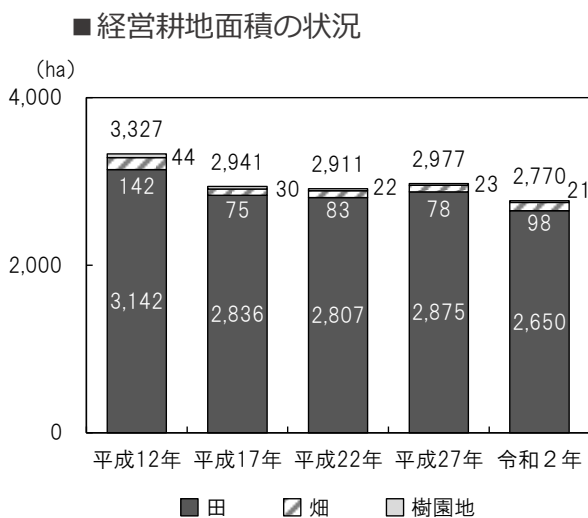
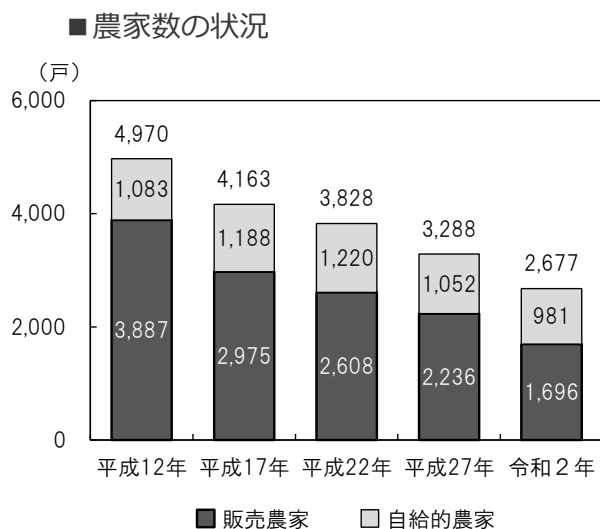
産業別就業者割合は、農業などの第1次産業、工業などの第2次産業は平成22年に減少して以降ほぼ横ばいとなっています。国・県と比較すると、第1次産業、第2次産業が多く、第3次産業が少ない状況です。



資料：国勢調査

農家数は、販売農家は平成12年以降減少傾向、自給的農家は平成22年まで増加し、以降減少しています。総農家数は減少傾向であり、令和2年の総農家数は2,677戸となっています。

経営耕地面積はゆるやかに減少しています。

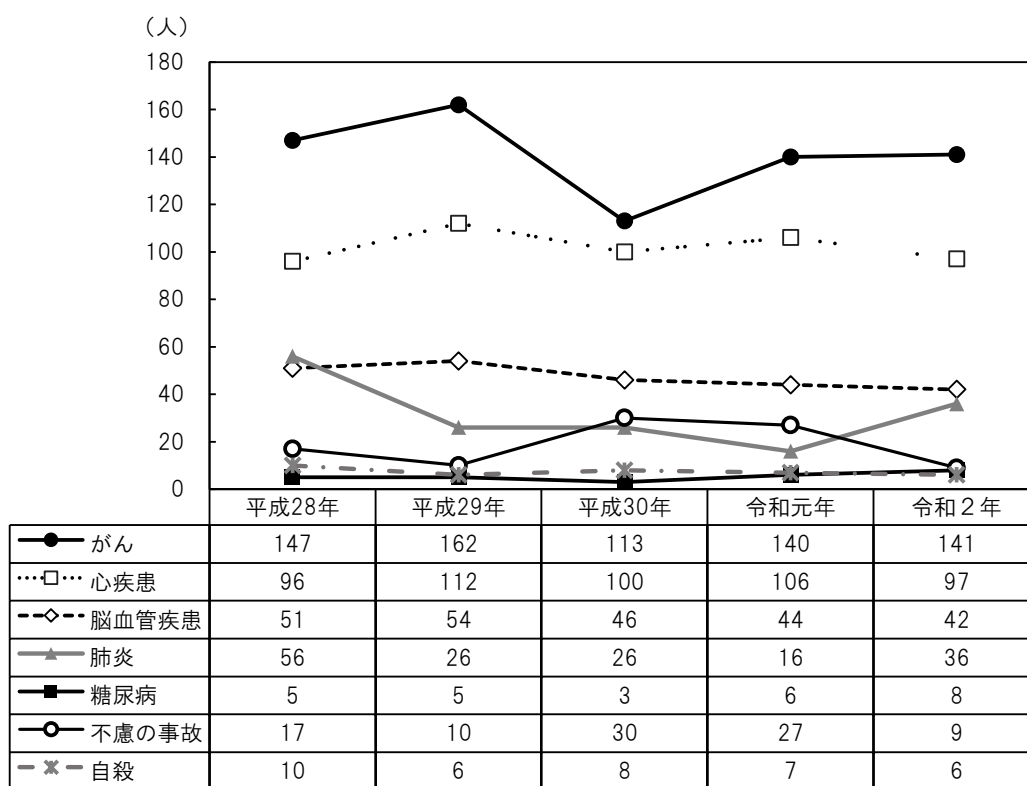


資料：農林業センサス

(3) 健康の状況

主要死因別死亡者数は、がんと心疾患が各年で多くなっています。

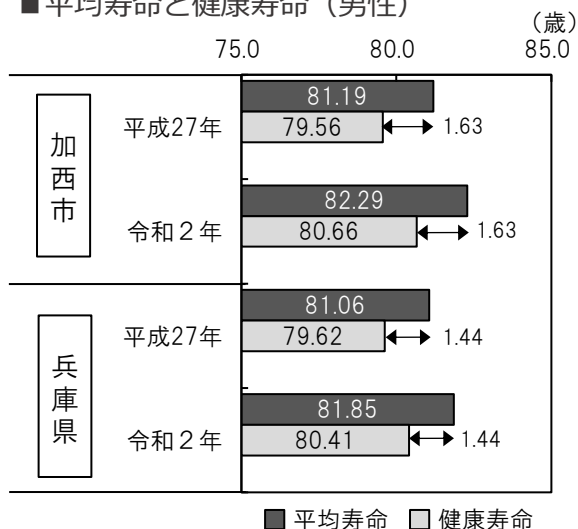
■ 主要死因別死亡者数の推移



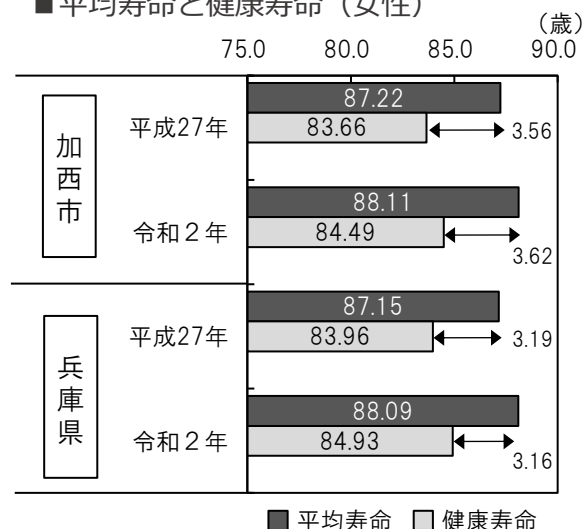
資料：兵庫保健統計

男女ともに平均寿命は県よりも長くなっていますが、介護を必要とする期間である、健康寿命と平均寿命の差が大きくなっています。

■ 平均寿命と健康寿命（男性）



■ 平均寿命と健康寿命（女性）



資料：兵庫県における健康寿命の算定結果

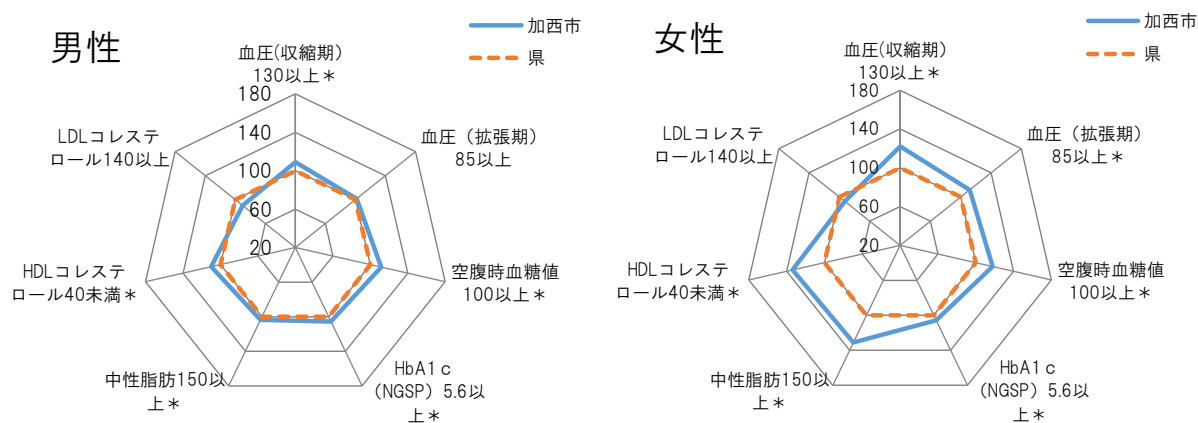
特定健診での各項目について、兵庫県全体と比較すると、女性では血圧や血糖値、中性脂肪の項目が有意に高くなっています。

また、男女ともに HDL コレステロールが有意に低くなっています。

メタボリックシンドロームと生活習慣に関する各項目について、兵庫県全体と比較すると、女性のメタボ該当者、食べる速度が速い人の割合が有意に高くなっています。また、男女ともに運動習慣のない人、歩く速度の遅い人の割合が有意に高くなっています。

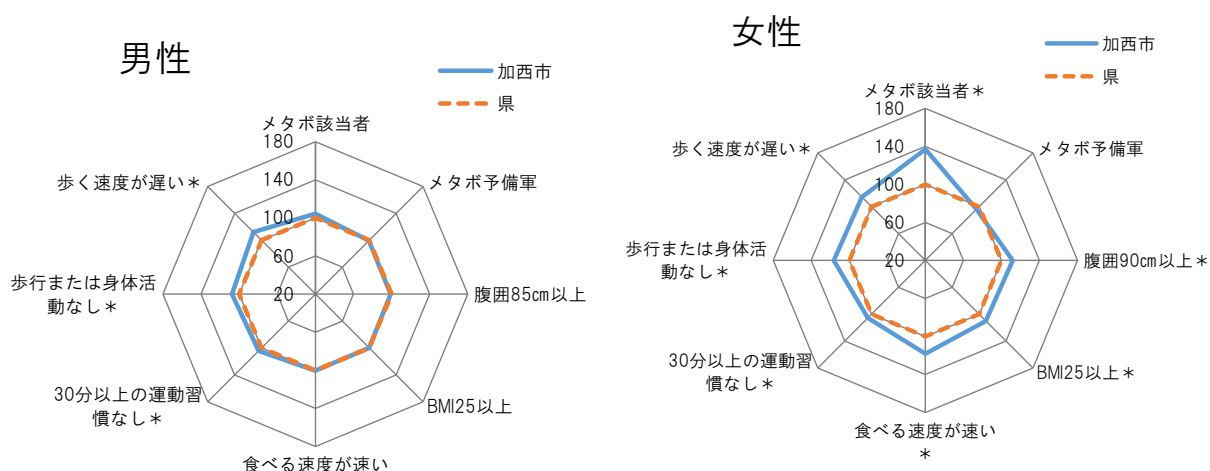
■特定健診における各項目の標準化該当比〈2018 年〉（兵庫県全体を 100 とする）

【40-74 歳】



■メタボリックシンドロームと生活習慣の標準化該当比〈2018 年〉（兵庫県全体を 100 とする）

【40-74 歳】



県と比較して有意差がある項目には「*」を付けています。

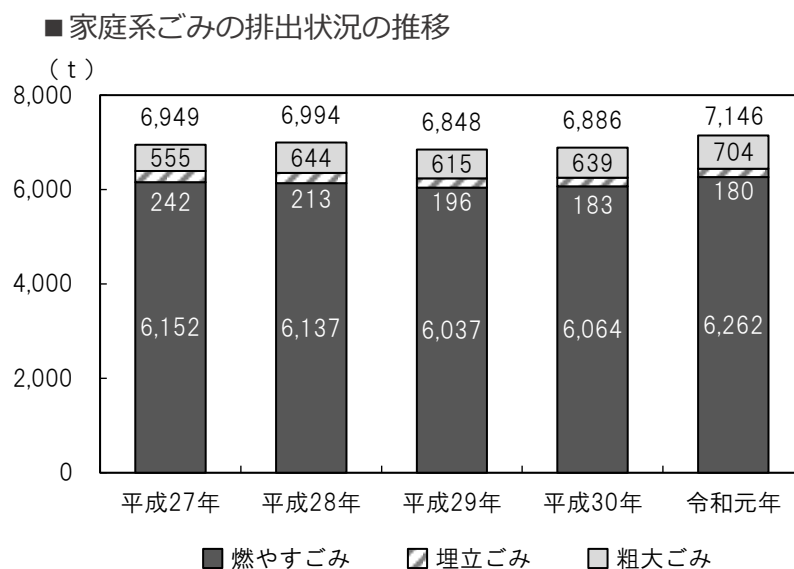
資料：ひょうご健康づくり支援システム「地域カルテ」

(4) 環境への配慮の状況

家庭系ごみの排出状況は、平成 29 年以降、燃やすごみ、粗大ごみが微増傾向となっています。また、家庭系ごみ全体の排出量も微増しています。

しかし、家庭系ごみの 1 人 1 日あたり排出量は他市町に比べて少ない（県下 41 市町中 4 番目※）状況です。

※資源化物を除く家庭系ごみ（令和元年度実績値）



資料：加西市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（令和 3 年）

2 第2次計画の評価

各関係課、関係団体の取り組み状況を踏まえた、第2次計画の目標達成状況と取り組みの評価は以下のとおりです。

【目標値の評価基準】

- ◎：目標値を達成したもの
- ：目標値は達成しなかったものの数値に改善がみられたもの
- △：目標値に達せず数値も改善しなかったもの

(1) 次世代の望ましい食習慣形成のための食育

項目	基準値 (H29 年度)	目標値 (R 4 年度)	現状値 (R 4 年度)	評価
よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合	60.2%	70.0%	62.5%	○
むし歯のない3 歳児の割合	85.0%	87.0%	84.7% (R4 年 10 月末)	△

○市民アンケートでは食べ方に関心のある人は前回調査より改善しているものの、目標値には達していません。また、ふだんよく噛んで食べていない人は50 歳代で多くなっています。(P47、48 参照)

○いずみ会と協働で実施する食育教室において、噛みごたえのある「カミカミおやつ」の紹介を行ったり、「2 歳児食と歯の教室」ではブラッシングに加えて、噛むことの大切さを伝えています。今後も幼少期における食べ方の指導に取り組むことが大切です。

○各小学校において、養護教諭を中心に健康に関する課題を把握し、保健だよりや個別の面談により家庭との共有を図りました。今後も子どもを通じた親世代への啓発に加え、全世代に向けた周知啓発を進めていきます。

○小学校高学年、中学2 年生が授業で栄養バランスを学び、児童・生徒が考えた献立を学校給食で提供しています。

(2) 健康づくり・健康寿命の延伸のための食育

項目		基準値 (H29 年度)	目標値 (R 4 年度)	現状値 (R 4 年度)	評価
朝食を食べる人の割合	20～30 歳代男性	61.4%	70.0%	69.4%	○
	20～30 歳代女性	79.3%	90.0%	80.0%	○
1 日 2 回以上、主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べる人の割合		53.2%	60.0%	58.2%	○
野菜を毎食食べている人の割合		18.5%	30.0%	21.2%	○
内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実施している人の割合		28.5%	40.0%	39.8%	○

○朝食を食べる人の割合は、20～30 歳代男性、女性ともに改善がみられるものの、朝食を毎日食べる人の割合は、20 歳代、30 歳代で低くなっています。(P40 参照)

○主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べる人の割合、野菜を毎食食べている人の割合は、前回調査より改善しているものの、目標値には達していません。(P42 参照) 食育教室を継続して実施し、朝食を食べることの大切さやバランスの良い食事、野菜の役割などについて市民の理解を深めることが重要です。

○幼保施設で作成している「給食だより」や学校で栄養教諭が作成している「ランチタイム」により、幼保施設・学校で周知啓発を行っています。引き続き、教育機関や関係団体と連携して、実践的な活動による食生活の改善に取り組むことが必要です。

○メタボリックシンドロームの予防や改善に取り組んでいる人の割合は、目標値には達していないものの、前回調査より改善しています。(P49 参照) 生活習慣病の予防においては、健康づくりに関する相談窓口、教室・講座後の相談の場を設け、一人ひとりに合った相談支援を実施しています。

○高齢期の食育の充実にあたっては、かさいいきいき体操を行っているグループに対し、「かみかみ百歳体操」を実施し、高齢期の口腔機能向上を図っています。

(3) 家庭や仲間、地域等での食育

項目	基準値 (H29 年度)	目標値 (R 4 年度)	現状値 (R 4 年度)	評価
1 日 1 食以上、2 人以上で食事をする割合	88.6%	90.0%	87.9%	△
地域の郷土料理を知っている人の割合	11.1%	30.0%	20.9%	○
知っていて、作ることもできる人の割合	3.7%	15.0%	8.3%	○

○1 日 1 食以上、2 人以上で食事をする割合は、前回調査よりも低くなっています。(P43 参照) 食事を楽しむことやみんなで食卓を囲むこと(共食)は、食育における考え方として重視されているポイントのひとつであるため、引き続き推進していきます。

○地域の郷土料理を知っている人や作ることもできる人の割合は、ともに前回調査より増加しています。(P56 参照) 令和3年に、郷土料理や加西市産農産物を使った料理のレシピを掲載した「伝えたい つなぎたい“かさい”のふるさとごはん」を作成しました。また、いずみ会による調理実習など実践的な取り組みも行っています。

○学校給食では、加西市の食材を使ったメニューをはじめ、全国の郷土料理や行事食を提供しています。

○地域での食を通じた交流は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で機会が減っていますが、地域独自の食文化を継承するために大切であると考えます。

(4) 農業や食の循環に関する食育

項目	基準値 (H29 年度)	目標値 (R 4 年度)	現状値 (R 4 年度)	評価
食育の体験学習に参加した小中学生の割合	64.2%	80.0%	83.1%	◎
加西産農産物を意識して購入している割合	44.7%	60.0%	36.6%	△
学校給食での加西産農産物の使用割合	16.1%	20.0%	18.9%	○

○加西市産農産物を意識して購入している人の割合は、前回調査よりも低くなっています。子育て世代である 40 歳代と、60 歳以上で、加西市産を意識して購入している割合が高くなっています。(P59 参照)

○幼保施設・学校では、加西とまとなどの収穫体験を実施し、子どもたちが生産者や農業に触れる機会を設けています。また、加西市産農産物を給食で活用し、地産地消の推進に取り組んでいます。

○環境に配慮した食生活の実践にあたっては、「食品ロス」という言葉の認知度は高く、家庭での「食品ロス」を減らすための取り組みにもつながっています。(P64、65 参照)

(5) 食環境づくり

項目	基準値 (H29 年度)	目標値 (R 4 年度)	現状値 (R 4 年度)	評価
食品を購入するとき、食品表示を意識する人の割合	88.4%	90.0%	72.5%	△
食生活改善活動への参加者数	12,845 人 (H28 年度)	14,000 人	6,243 人 (R4 年 10 月末)	△

○食品表示を意識する人の割合は、改善がみられず、前回調査よりも低くなっています。(P66 参照) 幅広い年代に向けた食の安全・安心、食品衛生、栄養成分表示等に関する周知啓発が必要です。

○加西市産農産物の周知啓発を進めるため、「食育かるた（かさい たべもの かるた）」を活用し、飲食店や健康福祉まつりにて、かるた大会を開催しました。

○SNS 等を活用し、給食献立の紹介や給食・食育関連情報の発信を開始しています。

○食生活改善活動が新型コロナウイルス感染症流行の影響で減少したため、参加者数も減っています。今後も感染予防に配慮し、活動を進めていきます。

3 加西市の食育に関わる主な課題

統計データや市民アンケート、また、第2次計画の評価などからみえる主な課題を整理すると以下のとおりです。

(1) 食育への関心を高め、実践につなげることが必要です

幼保施設・学校を通じた子どもたちへの食育の推進、食育かるたや冊子を活用した食育への理解促進に取り組んできました。市民アンケートでは、子育て世代や働き世代の食育への関心が低くなっていることから、市民一人ひとりが自らの食について考え、自然と食育を実践していくことができるよう、関係団体間の連携を強化し、市全体で食育を推進することが重要です。

(2) 生活習慣病の予防のため、適切な食習慣の定着が必要です

特定健診の結果では、高血圧や肥満に該当する割合が県平均より高くなっています。生活習慣病予防を目的にすべての市民に対して適切な情報提供を行うとともに、誰もが取り組みやすく、行動変容につながるきっかけづくりが必要です。

(3) 食を楽しみ、食文化を次世代へ継承していくことが必要です

食事を通じたコミュニケーションを楽しむなかで、食事のマナーやあいさつ、食への感謝を身に付け、健全な身体と豊かな心を育むことが大切です。市民アンケートでは、郷土料理を知っている人は前回調査よりも増加したものの、認知度はいまだ低い状況です。市民が地域の食文化を大切にし、次世代へ継承していく取り組みが重要です。

(4) 食べ物の大切さを学び、環境に配慮した食生活を実践することが必要です

幼保施設・学校では、給食で加西市産農産物を使用しています。また、収穫体験などを通して、農業に触れ、生産者と交流する機会を設けています。農に関わる体験活動を通して、自然の恵みに感謝する心や食材を大切に作る心を育むことが大切です。

さらに、持続可能な食を支えるために食品ロスを削減することや地産地消を推進していくことも大切です。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

第2次計画で定めた基本理念「食を楽しむ つながる 笑顔と健幸のまち“かさい”」を継承・発展し、本計画では以下を基本理念として計画を推進していきます。

食を楽しむ つながる
笑顔と**健幸**のまち“かさい”

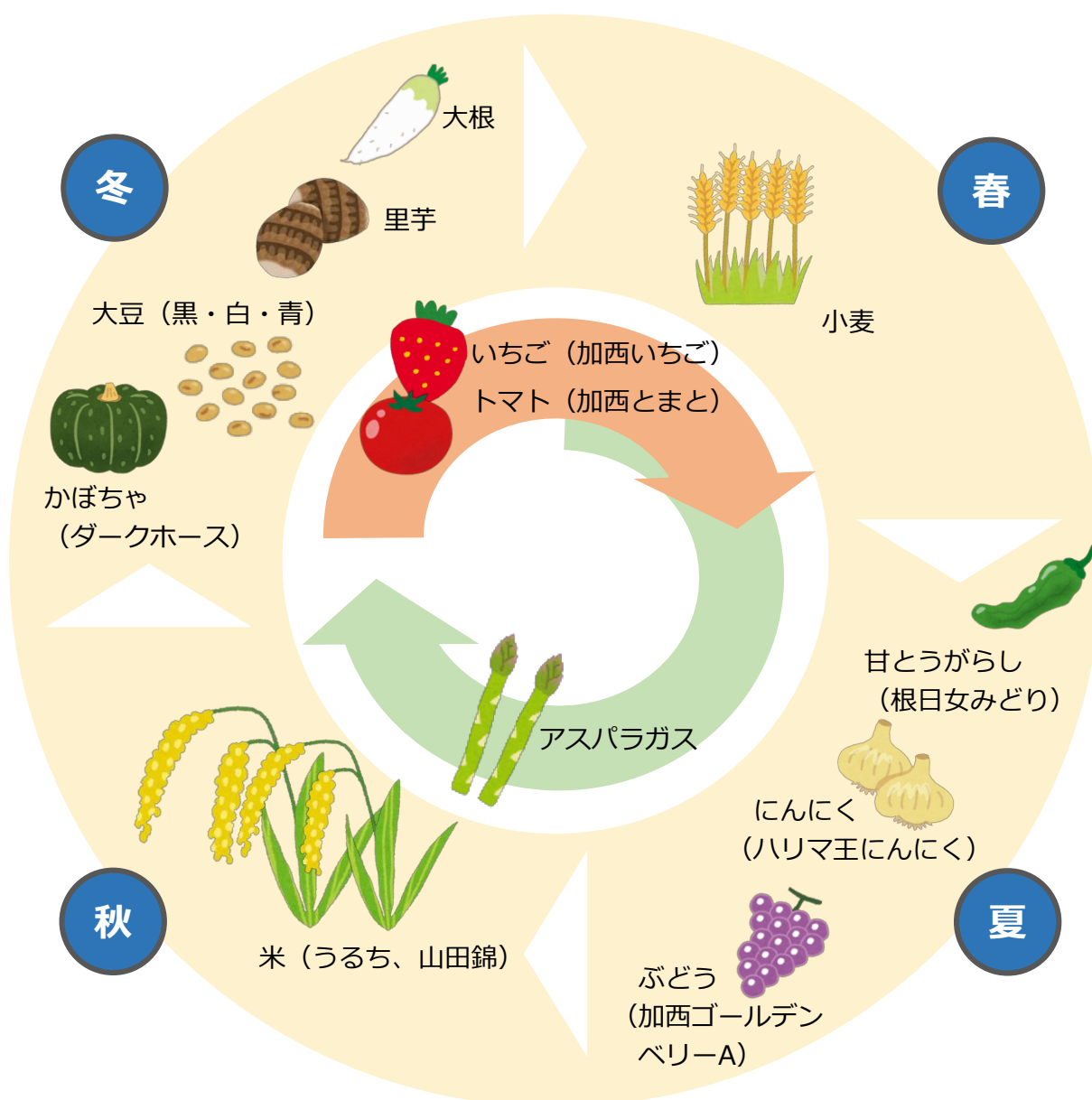
～みんなで広げる実践の環～

2 計画のスローガン

計画期間の5年間に於いて『加西を美味しく食べよう』をスローガンに掲げ、食に対するさまざまな取り組みを進めていきます。市民の誰もが食に関する知識を身に付け、地域の食材を美味しく食べ、食を楽しみ、健やかに過ごせることを目指します。



■季節ごとの加西市の主な農産物



3 計画の視点

本計画では、以下の5つの視点から施策の展開を図ります。

(1) 若い世代を中心とした食育の推進

市民一人ひとりが食や食育に関する知識を深めることで、実践につなげていけるよう、幼保施設・学校での食育推進、広報等による正しい知識の普及に取り組みます。

(2) 健やかな暮らしを支える食生活の実践

生涯を通して健康で豊かな暮らしを実現するため、規則正しく食べることや適切な食べ方、栄養バランスなどの重要性について周知啓発を行い、適切な食生活を実践できる環境づくりに努めます。

(3) 食を通じたつながりづくり

家庭や学校、地域での共食の機会や料理を学ぶ機会を通して、基本的な食事のマナーや食文化を伝え、つくる楽しさや食べる楽しさを感じられる取り組みを進めます。

(4) 地産地消の推進

加西市産の農産物について、市民へのさらなる周知と手に入れやすい環境づくりにより、地産地消を進め、自然の恵みに感謝する心や地域への愛着心を育みます。

(5) SDGs と連動した食育

本市は、令和4年度に内閣府から「SDGs 未来都市」に選定され、よりよいまちを次世代につないでいくための取り組みを進めています。本計画においても、食の安全・安心や環境に配慮した食生活について市民への周知啓発を行うなど食育の推進を通して、以下の目標の実現を目指します。

※2015年9月の国連サミットにおいて、先進国を含む国際社会全体の開発目標として「SDGs（持続可能な開発目標）」が採択されました。SDGsは、2030年までに世界中で達成すべき事柄として掲げられており、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、17の目標と具体的に達成すべき169のターゲットから構成されています。

■ 食育の推進に関連する主な取り組み項目



第4章 食育の推進に向けた具体的な展開

1 施策体系

現状と課題を踏まえ、施策領域ごとに施策を体系づけ、具体的な取り組みを推進します。

施策領域	施策
1 若い世代を中心とした食育の推進	(1) 食に関する正しい知識の普及 重点 (2) 乳幼児期の望ましい食習慣の形成 (3) 学校給食の活用促進
2 健やかな暮らしを支える食生活の実践	(1) 規則正しく栄養バランスのとれた食生活の推進 重点 (2) よく噛んで食べる習慣の定着 (3) 健康寿命の延伸に向けた食育の推進
3 食を通じたつながりづくり	(1) つくる楽しさ、食べる楽しさを感じる食育推進 重点 (2) 食育の環の拡大 (3) 食文化の継承
4 地産地消の推進	(1) 地産地消の推進 重点 (2) 体験活動の充実
5 SDGsと連動した食育	(1) 食の安全・安心に関する普及啓発 重点 (2) 環境に配慮した食生活の実践 (3) 多様な暮らしに対応した食に関する支援

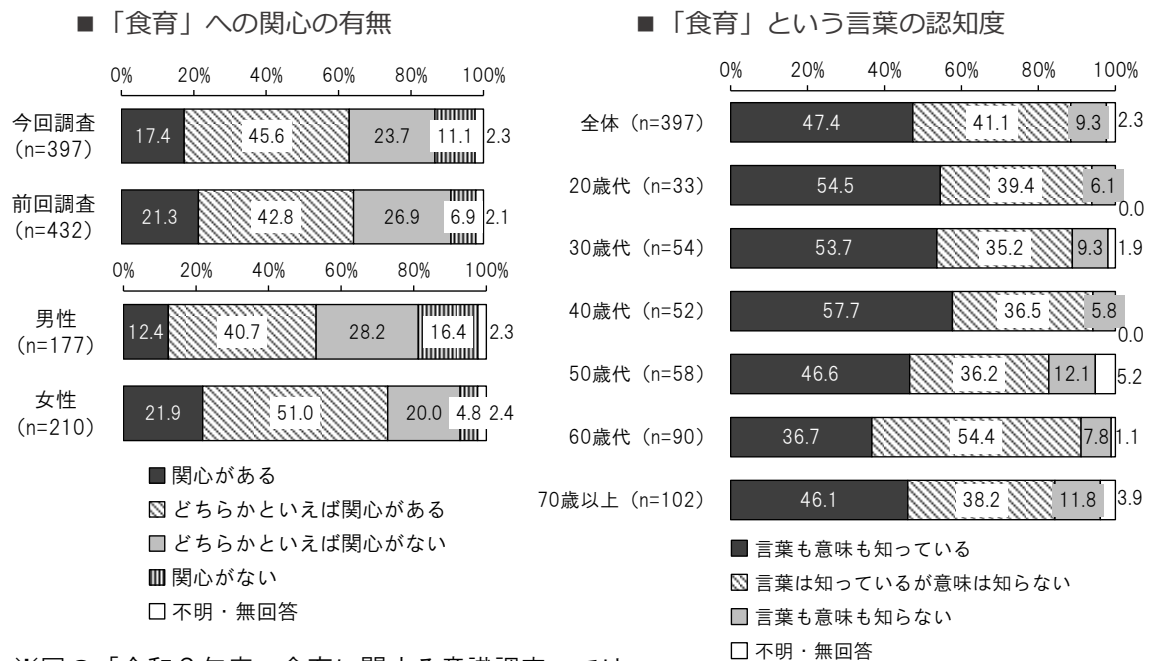
2 施策の展開

施策領域1 若い世代を中心とした食育の推進

現状と課題

- 市民アンケートでは、食育への関心について、「関心がある」と回答した人が減少し、「関心がない」への回答が増加しており、関心度が下がっていることがうかがえます。特に、男性の関心が低く、また、国の調査と比較しても全体の関心度は低くなっています。
- 「食育」について、「言葉も意味も知っている」と回答した人が20～40歳代で高くなっており、若い世代の方が認知度が高い傾向がみられます。若い世代の食育への関心をさらに高め、実践へとつなげていくために、子どもを通じた親世代への周知啓発が必要です。

市民アンケート結果



※国の「令和3年度 食育に関する意識調査」では、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計が、79.5%となっています。

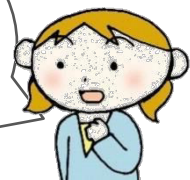
策定委員会での意見



子どもたちに伝えて
いる食育に関すること
を保護者にも聞いて
もらいたいな

「食育」について知っ
ていても、実践して
いる人はそんなに多
くないみたい

(P54、55 参照)



具体的な取り組み

市民一人ひとりの取り組み

- 食育に関心を持ち、食育活動に取り組みます。
- 食育に関する情報を家族で共有します。
- あいさつや食事マナーを学び、実践します。

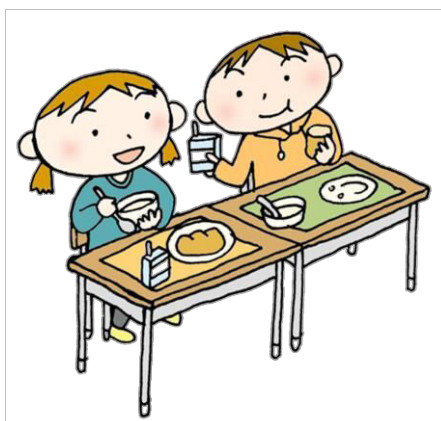
市・地域の取り組み

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(1)食に関する正しい知識の普及 重点			
① 食育指導の充実	給食の時間を中心に学校教育活動全体を通して、栄養、農業、食の流通、食事マナー等に関する食育指導を行います。	教育総務課	学校
② 健全な食習慣を送るための知識と技術の習得	小・中・特別支援学校の児童・生徒の健康に係る課題を把握し、家庭へ伝えとともに、健全な食習慣の習得に向けた授業等を実施します。	教育総務課	学校
③ 子どもの親世代への食育推進	学校、PTA等と連携し、食育に関する行事や講座への保護者の参加を促し、家庭での実践につなげる取り組みを進めます。	総合教育センター	加西市連合PTA
④ 食や健康に関する情報発信	市広報やホームページ、SNS、ちらし等を活用し、食に関するさまざまな情報を継続的に発信し、正しい知識の普及啓発に努めます。	庁内関係課	市内スーパー等
(2)乳幼児期の望ましい食習慣の形成			
① 食育教室の実施	幼保施設に通う園児と保護者を対象に、バランスの良い朝食、野菜の摂取に関する教室をいずみ会と連携して実施します。	こども未来課 健康課	幼保施設 いずみ会
② 乳幼児の食と歯に関する普及啓発	離乳食に関する教室、2歳児食と歯の教室では、食事バランス、おやつ、食事マナー、ブラッシング等の指導を行います。また、幼保施設で歯科衛生士による虫歯予防教室を実施し、歯の健康と噛むことの大切さ等について指導します。	健康課 こども未来課	歯科衛生士会 幼保施設
③ 妊産婦への栄養指導の実施	妊娠期に必要な栄養に関する調理実習と講話等を行います。	健康課	

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(3)学校給食の活用促進			
① ひょうご食育月間 や学校給食週間 での普及啓発	ひょうご食育月間や学校給食週間を中心に、 児童・生徒が考えたバランスのとれた献立の実 施、掲示物等での啓発を行います。	教育総務課	学校
② 家庭への情報発 信	幼保施設が作成する「給食だより」、栄養教 諭が作成する「ランチタイム」を通して、保護 者へ食に関する普及啓発を行います。	こども未来課 教育総務課	幼保施設 学校
③ 食物アレルギー への対応の推進	各幼保施設、各学校で食物アレルギー調査 を行い、学校給食等の献立に反映します。	こども未来課 教育総務課	幼保施設 学校

市民からの意見

- 食べ物があふれている世のなかで、子どもたちに食事と健康のつながりの大切さをもっと伝えられたら
- 親世代に食の大切さを伝えられる機会をもっとたくさんつくってほしい
- 子どもたちに地産地消や安全な食品がなぜ大切かを伝え、それを届けてくれる人への感謝の気持ちを育てる食育教育が必要
- 給食の特別メニューの日は子どもが喜んでいる

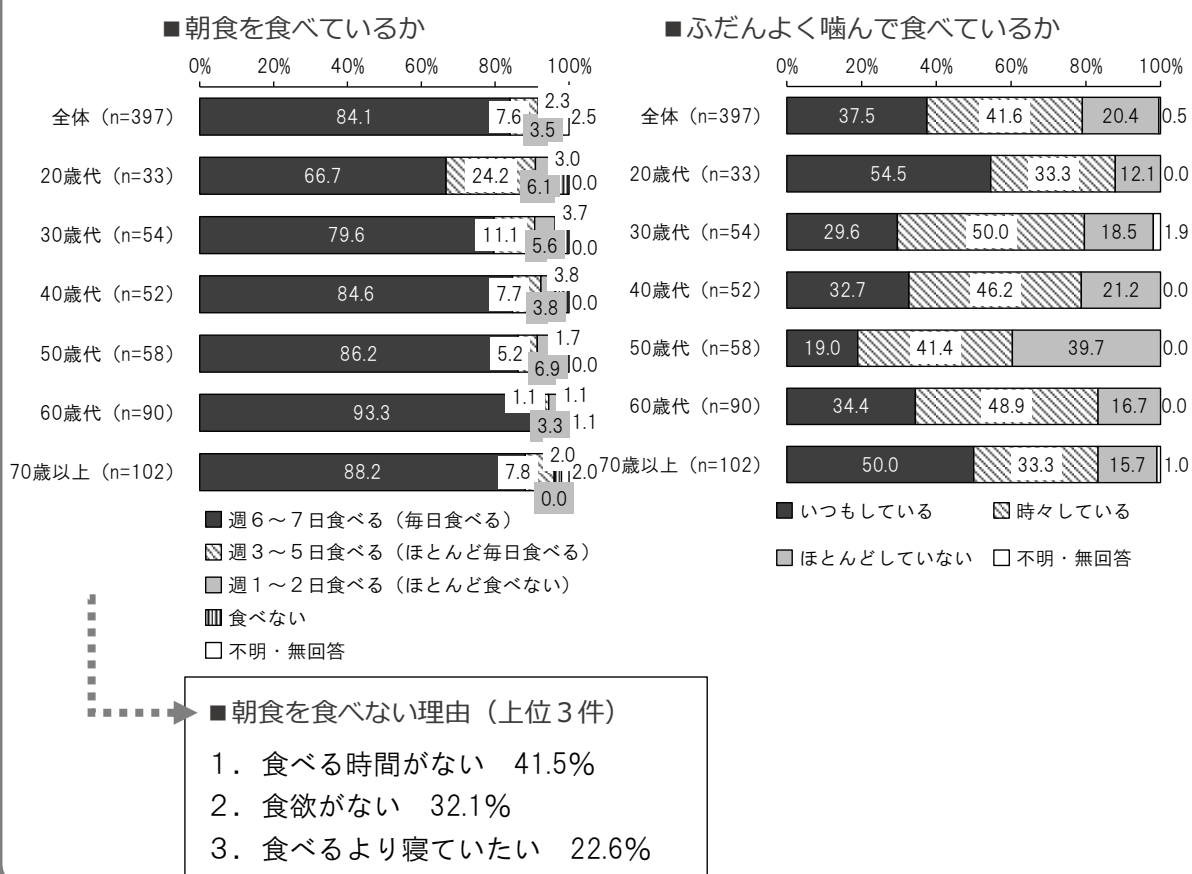


施策領域2 健やかな暮らしを支える食生活の実践

現状と課題

- 生活習慣病の予防や健康寿命の延伸のためには、規則的で栄養バランスの良い食習慣を定着させることが重要です。市民アンケートでは、朝食を欠食する人の割合は20歳代男性で多くなっており、また、主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度は、30～50歳代で低くなっています。
- 30～50歳代でよく噛んで食べることを「いつもしている」人が少なくなっており、特に50歳代で2割以下となっています。若い世代や働き世代に対し、生活習慣病予防のためにも規則正しく食べる、よく噛んで食べるなどの正しい食習慣の定着に向けた取り組みが必要です。

市民アンケート結果



策定委員会での意見



50歳代で食習慣の変化や健康づくりへの意識の差があるみたいだね

朝食の欠食が中学校に入ってから増えるのが気になるね

（P41 参照）



具体的な取り組み

市民一人ひとりの取り組み

- 早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、規則正しい食習慣を身に付けます。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上とります。
- ゆっくりと、よく噛んで味わって食べることを心がけます。

市・地域の取り組み

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(1)規則正しく栄養バランスのとれた食生活の推進 重点			
① 朝食摂取の増加 に向けた普及啓発	市広報、ちらしだけでなく、「保健だより」や「ランチタイム」等を通じ、規則正しい食習慣や朝食の摂取等について啓発を行います。また、簡単に作れる朝食レシピの紹介を行います。	こども未来課 教育総務課 健康課 農政課	幼保施設 学校 いずみ会 市内スーパー等
② 「バランスの取れた食事」の普及	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事や野菜摂取の大切さについて、市広報やちらし、「ランチタイム」等で普及啓発を行います。	健康課 こども未来課 教育総務課	幼保施設 学校 生産者 市内スーパー等
③ 減塩への意識啓発	料理教室で減塩の工夫を取り入れた食事を紹介するなど、減塩の必要性や取り組み方法について普及啓発を行います。また、町ぐるみ健診で高血圧予防の健康相談・減塩指導を行います。	健康課	いずみ会
(2)よく噛んで食べる習慣の定着			
① よく噛むことの大切さの周知	よく噛んで味わって食べることの大切さを周知するとともに、各ライフステージに応じて、ゆっくりよく噛むことへの意識付けや食べ方についての啓発を行います。	こども未来課 教育総務課 健康課	幼保施設 学校
② 高齢期の口腔機能向上	高齢者の通いの場等において、口腔機能低下予防や誤嚥性肺炎を予防する「かみかみ百歳体操」を実施します。	長寿介護課	歯科医師会 歯科衛生士会
③ 歯周病の予防と早期発見	歯周病検診の受診を促進し、早期発見およびブラッシング指導等を行います。	健康課 こども未来課 学校教育課	歯科医師会 歯科衛生士会 幼保施設 学校

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(3)健康寿命の延伸に向けた食育の推進			
① 健康相談の実施	生活習慣病予防のため、一人ひとりに合った食生活・運動など、健康づくりに関する相談支援を行います。	健康課	
② 高齢者の食生活の改善支援	介護予防教室でバランス食やフレイル予防についての講座を実施します。	長寿介護課 健康課	
③ シニアクラブ等での栄養指導の機会の拡大	市内のシニアクラブ等と連携し、栄養士による栄養教室等を実施します。	長寿介護課 健康課	シニアクラブ等
④ 配食サービスの実施	65歳以上の一人暮らし高齢者や高齢者世帯、重度身体障害者等を対象に配食サービスと安否確認を行います。	長寿介護課	社会福祉協議会 配食事業者

市民からの意見

- 食に興味を持ち、いつの間にか生活の一部になっている、そんな食育が理想
- 手間がかかるため、栄養バランスを考えて作るのは難しい。スーパーに食育コーナーを作ってほしい
- 一人暮らしの方を訪問し、必要な食材の注文や調理などのサービスが必要

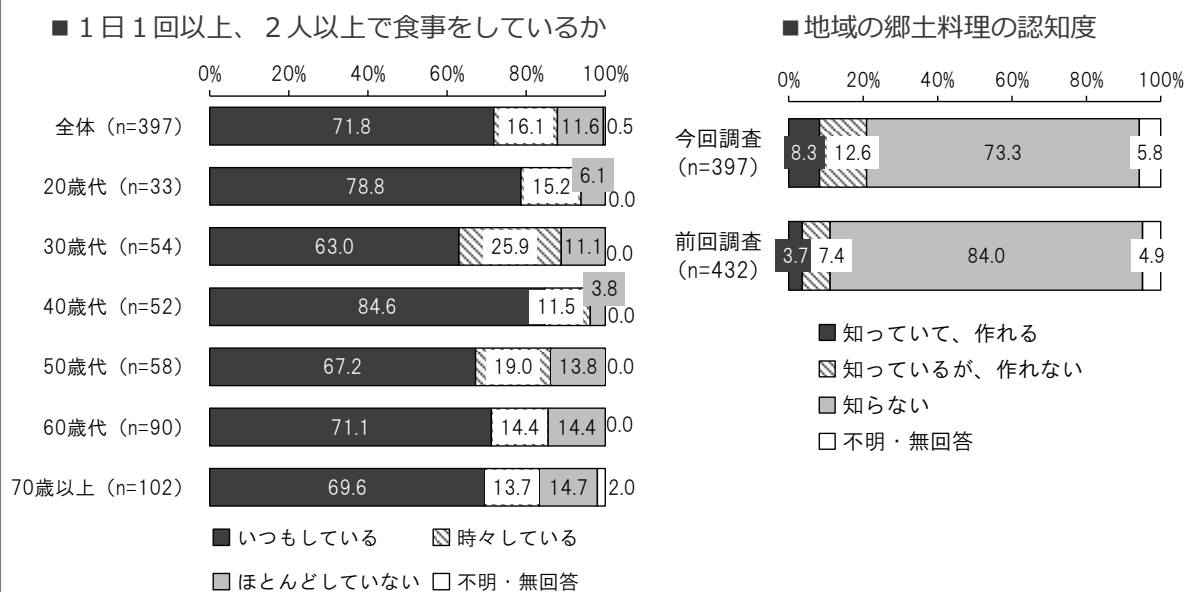


施策領域3 食を通じたつながりづくり

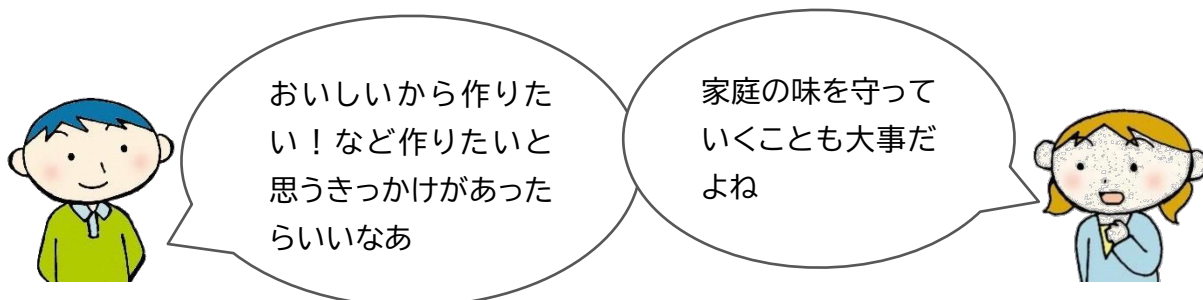
現状と課題

- 昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、誰かと一緒に食事をするなど食を通じたコミュニケーションの機会は減少しており、地域や学校における共食の推進に影響が出ています。孤食を防ぐため、新しい生活様式を踏まえた共食の機会提供等が必要です。
- 地域の郷土料理（ふるさと料理）の認知度について、市民アンケートでは、前回調査よりも「知っていて、作れる」「知っているが、作れない」の割合が増加しており、取り組みに一定の効果がみられます。一方で、20歳、30歳代で郷土料理を作れる人の割合は低く、引き続き、若い世代に地域の食文化を継承していくための取り組みを行い、地域への郷土愛の醸成につなげていくことが大切です。

市民アンケート結果



策定委員会での意見



具体的な取り組み

市民一人ひとりの取り組み

- 家族や友人と一緒に食事を楽します。
- 地域の行事等を通して、共食ができる機会を設けます。
- 郷土料理や行事食をはじめ、食文化について学び、家庭の食事に取り入れます。

市・地域の取り組み

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(1)つくる楽しさ、食べる楽しさを感じる食育推進 重点			
① 親子で調理を学ぶ機会の充実	幼保施設の園児、小学生の親子を対象に加西市産農産物を使用した料理教室や調理実習、図書館との合同による食育事業を実施します。	こども未来課 教育総務課 農政課 健康課 図書館	幼保施設 学校 農村女性組織 連絡協議会 いずみ会
② 家庭・地域における共食の推進	地域の高齢者と子どもが参加する食事会の開催など、世代間交流を含めた地域での共食を推進するとともに、家族や友人との共食を呼びかけます。	こども未来課 長寿介護課 教育総務課 ふるさと創造課	幼保施設 学校 地域団体
(2)食育の環の拡大			
① 食育に関わるボランティアへの支援	地域で食育に関わるボランティアを支援します。	健康課 ふるさと創造課	いずみ会 くらしと生活を守る会
② 関係団体の連携強化	市内の食育関係団体への支援や情報提供を行うとともに、食育推進ネットワーク会議により関係団体間の連携強化に努めます。	庁内関係課	食育推進ネットワーク会議委員
③ 食育月間・食育の日の取り組み促進	市内飲食店やスーパー、市内のイベント等と連携し、国の食育月間(6月)・県の食育月間(10月)・食育の日(毎月19日)に合わせた普及啓発活動を行います。	庁内関係課	いずみ会 市内飲食店 市内スーパー等
④ SNS等による食育に関する情報提供	市ホームページ、市広報、SNS等を活用し、幼保施設や学校、地域で取り組む食育の紹介、食育に関する情報提供を行います。	庁内関係課	食育推進ネットワーク会議委員

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(3)食文化の継承			
① 郷土料理の普及啓発	加西市の郷土料理のレシピ等を掲載した冊子「伝えたい つなぎたい “かさい”のふるさとごはん」の活用、ちらしやレシピカードでの郷土料理の紹介により、次世代へ地域の食文化を伝える取り組みを推進します。	健康課	いずみ会 市内スーパー等
② 給食での郷土料理や行事食の提供	幼保施設や学校の給食で郷土料理、行事食を提供します。	こども未来課 教育総務課	幼保施設 学校

市民からの意見

- 料理教室でもっと簡単なクラスがあれば
- 地域活動としてのコミュニケーションを伴う食イベントをしたい
- 地域食材を使った料理、料理法を知らないので、わかりやすく教えてもらえれば作れるかなと思う
- 加西にはおいしい野菜や果物がたくさんあるので、食育を通して加西の農産物や加西という場所をいろいろな方に知ってもらえたら

市民が知っている 加西市の郷土料理

さば寿司 かしわめし
どじょう汁 赤飯
煮しめ いかなごのくぎ煮
姫路おでん
など

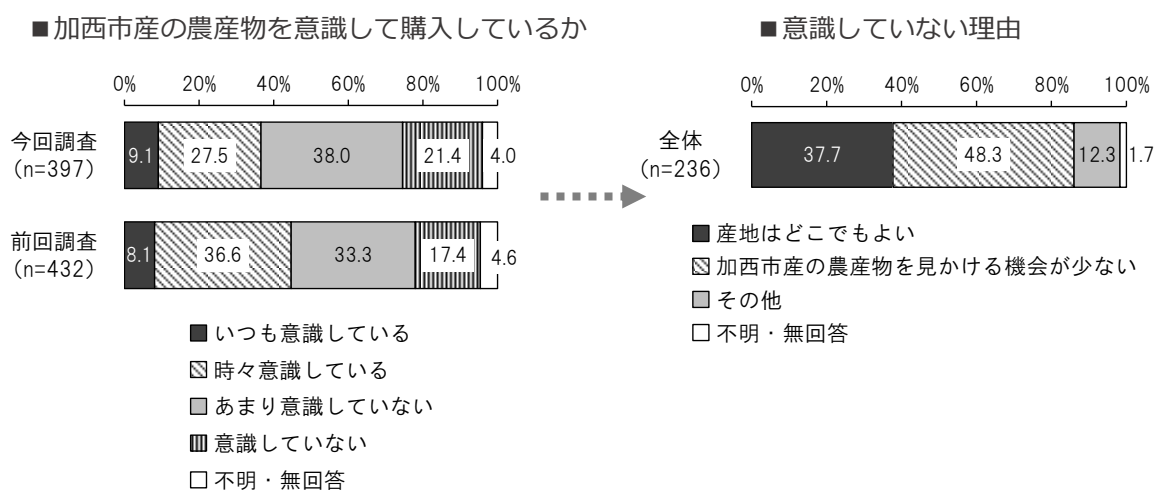


施策領域4 地産地消の推進

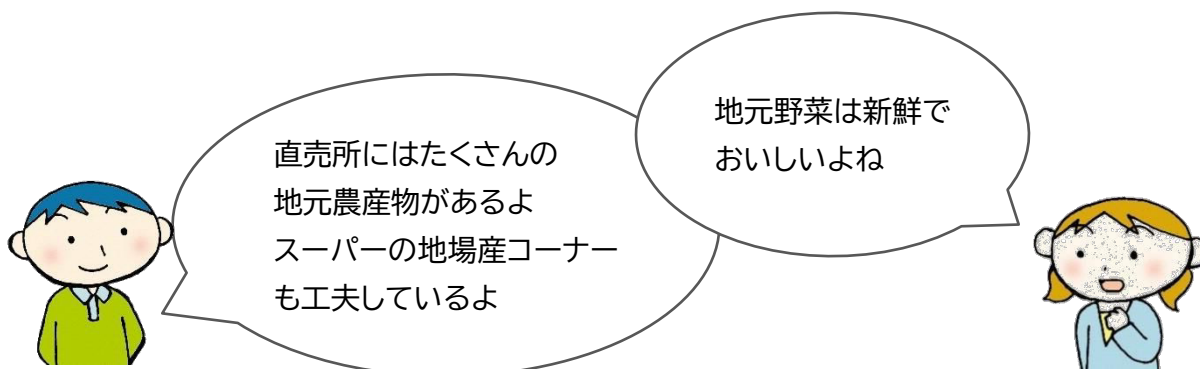
現状と課題

- 市民アンケートでは、加西市産の農産物を意識して購入している人の割合が、前回調査よりも減少しています。地産地消を推進していくために、加西市産農産物を入手しやすい環境を整えることが必要です。また、市民が農に関わる活動や生産者に関わる機会を増やし、地域の農業や農産物への理解を高めることが大切です。

市民アンケート結果



■策定委員会での意見



具体的な取り組み

市民一人ひとりの取り組み

- 農業体験等を通して、食の大切さと農業への理解を深めます。
- 地産地消に関心を持ち、加西市産食材を積極的に食べるようにします。

市・地域の取り組み

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(1)地産地消の推進 重点			
① 給食での加西市産農産物の利用促進	幼保施設や学校の給食において、加西市産農産物を積極的に活用します。	こども未来課 教育総務課	幼保施設 学校 JA兵庫みらい
② 加西市産農産物を活用した地産地消の推進	生産者と協働し、加西市産農産物の食農体験の拡充、市内飲食店での提供等を進めます。	農政課 文化・観光・スポーツ課 健康課 教育総務課	JA兵庫みらい 農業者 いずみ会 市内飲食店 市内スーパー等
③ 加西市産農産物を手に入れやすい環境づくり	愛菜館の充実やスーパー等における地場産コーナーの設置により、加西市産農産物を手に取りやすい環境づくりに努めます。また、市広報等により、加西市産農産物の周知を行います。	農政課	JA兵庫みらい 農業者 市内スーパー等
(2)体験活動の充実			
① 収穫体験の実施	幼保施設で菜園活動を行います。また、地域ボランティア、営農組合等の協力のもと、収穫体験を行います。	こども未来課 農政課	幼保施設 JA兵庫みらい 地域ボランティア等
② 生産者との交流機会の拡大	大豆、さつまいも、お米、トマト等の農業体験や農業学習を通して生産者との交流機会の拡大を図り、農に対する理解を深めます。	教育総務課 農政課	学校 JA兵庫みらい 地域ボランティア等

市民からの意見

- 加西市では多くの家庭で野菜を作っている。レトルト食品などが子どもたちの好む味になりつつあるが、季節の野菜がどれほど大切か教えてほしい
- 農業への関心を高めて、地域で誰もが手軽に使える田畑を増やす
- 地産の農産物がどこに売っているのか分からない

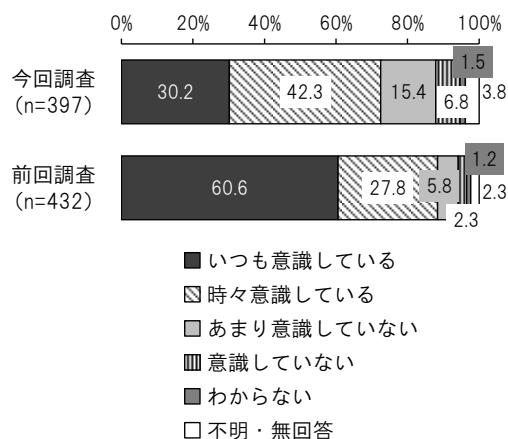
施策領域5 SDGs と連動した食育

現状と課題

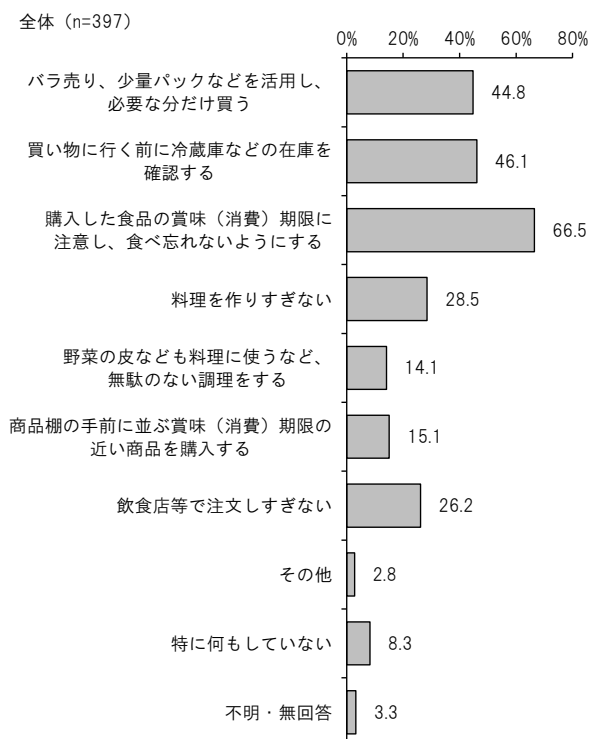
- 市民アンケートでは、食品表示をいつも意識している人の割合が、前回調査よりも減少しており、特に年齢が低いほど「いつも意識している」と回答した割合は低くなっています。市民一人ひとりが食品表示等から情報を得て自ら安全な食を選択する力を身に付けることができるよう、情報提供、周知啓発に取り組むことが必要です。
- 市民アンケートでは、環境に配慮した農林水産物や食品を選んでいる人の割合は、半数以下となっており、持続可能な食の実現に向けて、食品ロス削減に向けた取り組みとともに、環境配慮の実践に向けた周知啓発が必要です。

市民アンケート結果

■食品表示を意識しているか



■食品ロスを減らすためにしていること



■策定委員会での意見



加西は災害が少なく、穏やかな気候のせい
か、備蓄品の購入が少
ないね

災害もそうだけど、
万が一のためにも
3日分は用意したいね



具体的な取り組み

市民一人ひとりの取り組み

- 食の安全性に対して関心を持ち、食品表示を意識して購入します。
- 「もったいない」を意識し、作りすぎ、買いすぎ、食べ残しをなくします。

市・地域の取り組み

主な取り組み	内容	役割分担	
		行政	協働主体
(1)食の安全・安心に関する普及啓発 重点			
① 食品表示に関する普及啓発	市民が自らの判断において適切に食品を選択できるよう、食品表示についての講習会や資料配布を行います。	健康課 教育総務課 こども未来課	いずみ会 くらしと生活を守る会 市内スーパー等
② 災害時等の供給体制の整備	防災に関するイベント等で家庭における食料・飲料水等の備蓄を促し、防災食に関する情報を発信します。	健康課 危機管理課	いずみ会 くらしと生活を守る会 市内スーパー等 社会福祉協議会
(2)環境に配慮した食生活の実践			
① 食品ロスの削減	食に関するイベント等での啓発や食品を使い切るためのレシピ紹介等を行います。また、残っている食品を活用する取り組みとして、フードドライブを推進します。	環境課 健康課 地域福祉課	いずみ会 くらしと生活を守る会 市内スーパー等 社会福祉協議会
② 廃食油リサイクル事業の実施	廃食油を一般家庭から回収するリサイクル事業を実施します。また、学校給食の廃食油をリサイクルします。	環境課 教育総務課	学校
③ マイバック運動・レジ袋削減の推進	出生届者等にエコバックを配布します。また、市内スーパーに対し、レジ袋削減等の普及啓発を行います。	環境課	くらしと生活を守る会 市内スーパー等
(3)多様な暮らしに対応した食に関する支援			
① 生活困窮世帯等への支援	フードドライブやフードバンク、子ども食堂を通して、日々の食事が困難な生活困窮世帯等への食糧支援を行います。	地域福祉課	社会福祉協議会 市内スーパー等

市民からの意見

- 地産農産物が安全安心だと分かるようなしくみが必要ではないか
- 一人暮らしなのに、つい作り過ぎてしまうのが課題

第5章 計画の進捗管理

1 計画の推進体制

(1) 食育推進庁内連絡会議

庁内関係課からなる「食育推進庁内連絡会議」を年2回程度開催し、食育に関する情報を共有するとともに、第3次計画の進捗管理を行います。

(2) 食育推進ネットワーク会議

市内関係団体等で構成する「食育推進ネットワーク会議」を年2回程度開催し、「食育推進庁内連絡会議」との連携を図りながら、第3次計画の各団体の取り組み状況等を把握するとともに、食育に関する新しいプロジェクトを検討、実施します。

2 数 値 目 標

本計画の主な取り組みの進捗状況を把握するための数値目標を以下に設定します。

施策領域	項目		現状値 (R 4 年度)	目標値 (R 9 年度)
施策領域 1 若い世代を中心とした食育の推進	食育の「言葉も意味も知っている」人の割合		47.4%	55%
	食育に関心のある人の割合		63.0%	70%
施策領域 2 健やかな暮らしを支える食生活の実践	朝食を食べる人の割合	20～30 歳代男性	69.4%	75%
		20～30 歳代女性	80.0%	90%
	1 日 2 回以上、主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べる人の割合		58.2%	65%
	いつもよく噛んで食べている人の割合		37.5%	45%
施策領域 3 食を通じたつながりづくり	1 日 1 回以上、2 人以上で食事をする割合		87.9%	90%
	地域の郷土料理を知っている人の割合		20.9%	30%
施策領域 4 地産地消の推進	加西市産農産物を意識して購入している人の割合		36.6%	50%
	学校給食での加西市産農産物の使用割合		18.9%	22%
施策領域 5 SDG s と連動した食育	食品を購入するとき、食品表示を意識する人の割合		72.5%	80%
	食べ残しや食品の廃棄の削減に取り組んでいる人の割合		75.3%	80%

資料編

1 策定経過

日程	内容
2022 年（令和 4 年） 9 月 30 日	「第 3 次加西市食育推進計画 第 1 回策定委員会」の実施 ・加西市食育推進計画 策定スケジュールについて ・加西市「食育」に関する意識調査について
10 月 25 日～11 月 8 日	加西市「食育」に関する意識調査の実施
12 月 15 日	「第 3 次加西市食育推進計画 第 2 回策定委員会」の実施 ・第 2 次食育推進計画の評価 （市役所内各課の取り組み状況、市民アンケート結果） ・第 3 次加西市食育推進計画作成に向けて （第 3 次計画（素案））
2023 年（令和 5 年） 2 月 6 日	「第 3 次加西市食育推進計画 第 3 回策定委員会」の実施 ・第 3 次加西市食育推進計画（素案）について （施策体系について、施策の展開について）
2 月 20 日～3 月 17 日	パブリックコメントの実施
3 月 31 日	第 3 次加西市食育推進計画の策定

2 第3次加西市食育推進計画策定委員会設置要綱

○加西市食育推進地域づくり会議設置要綱

平成24年4月18日訓令第40号

庁中一般

改正

令和4年9月1日訓令第40号

加西市食育推進計画策定会議設置要綱

(設置)

第1条 加西市食育推進計画の策定を図るため、加西市食育推進計画策定会議（以下「策定会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 策定会議は、加西市食育推進計画の策定に必要な事項について協議を行う。

(組織)

第3条 策定会議の委員（以下「委員」という。）は、20人以内をもって組織し、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 市民代表

(2) 学識経験者

(3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、計画の策定が終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 策定会議に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 策定会議は、会長が招集し、会長がその会議の議長となる。

2 策定会議は、委員の半数以上のものが出席しなければ開くことができない。

3 策定会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第7条 策定会議は、必要に応じ、部会を置くことができる。

2 部会の運営について必要な事項は、会長が定める。

(庶務)

第8条 策定会議の庶務は、食育担当課において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、策定会議の運営その他必要な事項は、会長が定める。

附 則

この訓令は、平成24年5月1日から施行する。

附 則（平成29年7月31日訓令第40号）

この訓令は、平成29年8月1日から施行する。

附 則（令和4年9月1日訓令第40号）

この訓令は、令和4年9月20日から施行する。

3 第3次加西市食育推進計画策定委員会委員名簿

	所属	役職	氏名	備考
1	学識経験者（兵庫大学）	教授	矢埜 みどり	委員長
2	加西市くらしと生活を守る会	会長	谷勝 公代	副委員長
3	加西市いずみ会	会長	西村 佳子	
4	加西市栄養士会	会長	桑原 裕子	
5	加西市連合 PTA	副会長	本岡 哲也	
6	加西市立小学校食育担当校長	下里小学校校長	岩見 直美	
7	加西市立中学校食育担当校長	善防中学校校長	村田 豊樹	
8	加西市立園 給食・食育担当園長	泉よつばこども園 園長	山田 薫	
9	加東健康福祉事務所 健康管理課	管理栄養士	石部 恵美	
10	兵庫みらい農業協同組合 加西営農生活センター	営農販売施設課長	高井 崇行	
11	加西とまと出荷組合	会員	岡田 毅	
12	マックスバリュ西日本（株） 地域連携・環境社会貢献部	社会貢献・食育担当	山本 香織	
13	イオン加西北条店	CS 同友店販促課長	住田 忠文	
14	コープこうべ第4地区本部	担当係長	竹尾 伸一	
15	市民代表		馬渡 友樹子	

4 加西市「食育」に関する意識調査結果

(1) 調査の概要

目的

この調査は、市民の皆様の食習慣や食育に関する意識を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画を策定する基礎資料として活用するため実施しました。

調査対象と調査方法

◇調査対象者：加西市にお住まいの 20 歳以上の方 1,000 人（無作為抽出）

◇調査期間：令和 4 年 10 月 25 日（火）～11 月 8 日（火）

◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

回収結果

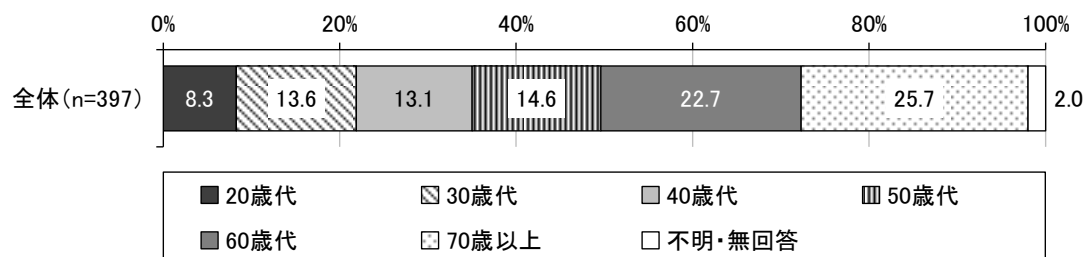
種別	配布数	有効回収数	有効回収率
市民アンケート	1,000 件	397 件	39.7%

(2) 調査結果概要

1. 回答者について

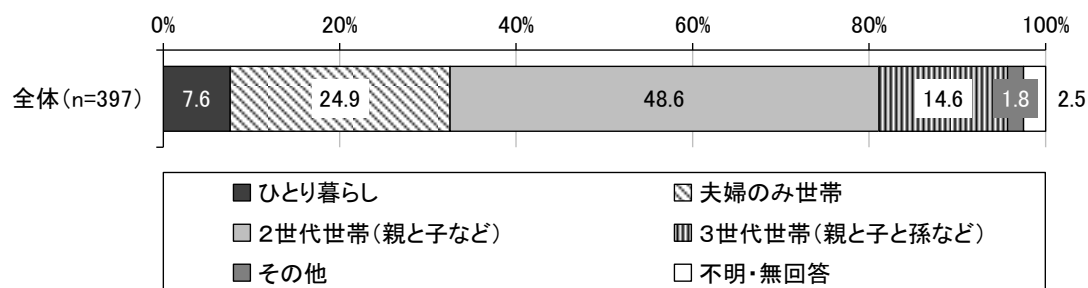
① 年齢

「70 歳以上」が 25.7%と最も高く、次いで「60 歳代」が 22.7%、「50 歳代」が 14.6%となっています。



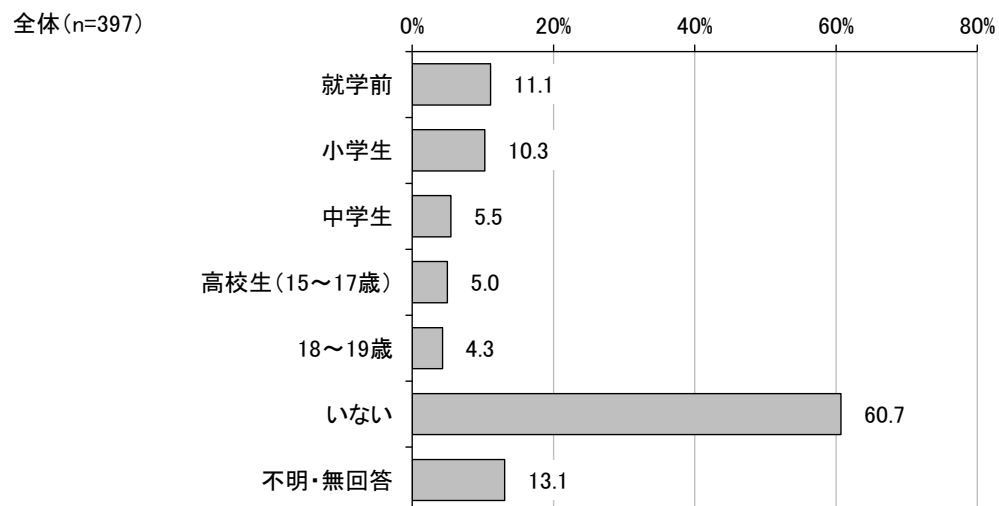
② 家族構成

「2 世代世帯（親と子など）」が 48.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 24.9%、「3 世代世帯（親と子と孫など）」が 14.6%となっています。



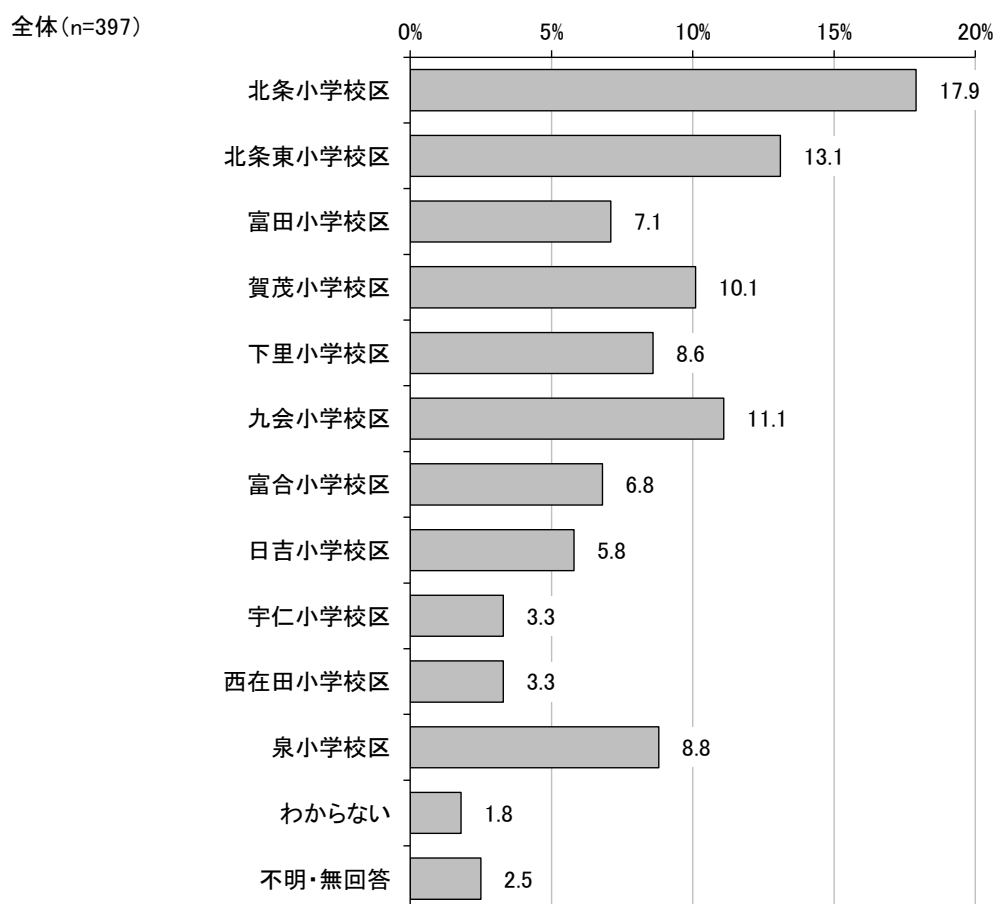
③ 子どもの有無

「いない」が 60.7%と最も高く、次いで「就学前」が 11.1%、「小学生」が 10.3%となっています。



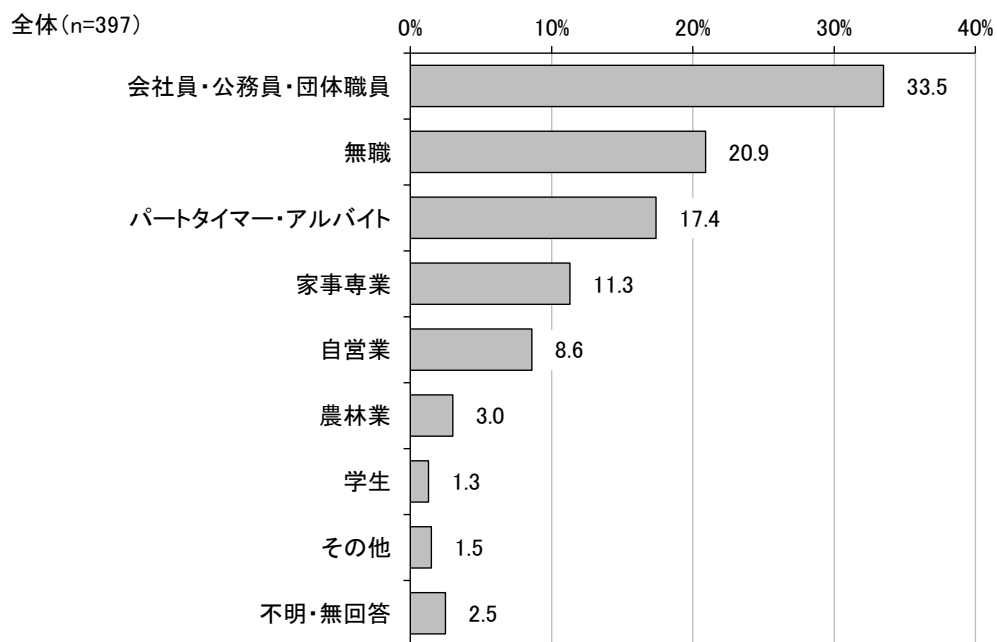
④ 居住地区

「北条小学校区」が17.9%と最も高く、次いで「北条東小学校区」が13.1%、「九会小学校区」が11.1%となっています。



⑤ 現在の職業

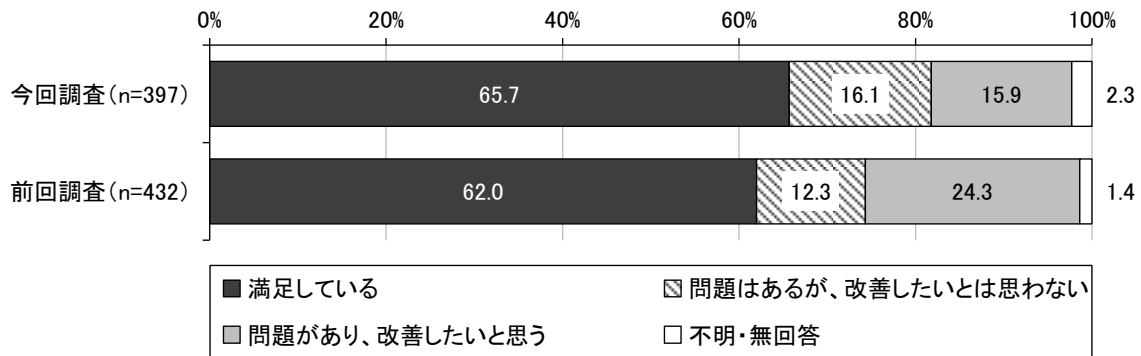
「会社員・公務員・団体職員」が33.5%と最も高く、次いで「無職」が20.9%、「パートタイマー・アルバイト」が17.4%となっています。



2. 食生活や生活習慣について

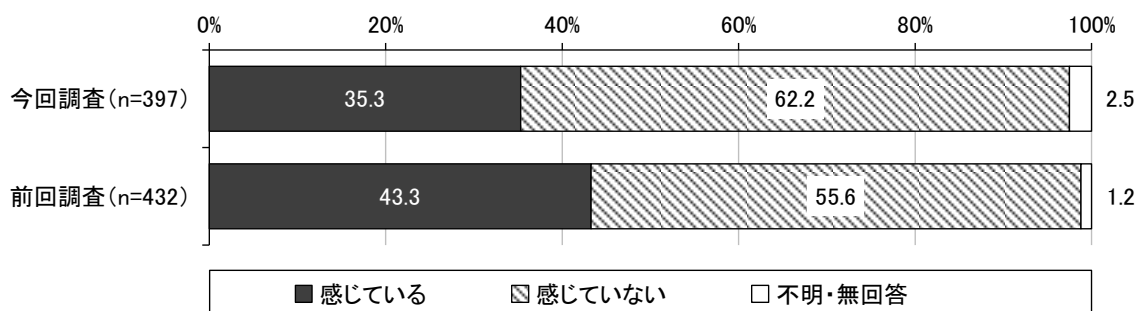
① 今の食生活に満足しているか

「満足している」が65.7%と最も高く、次いで「問題はあるが、改善したいとは思わない」が16.1%、「問題があり、改善したいと思う」が15.9%となっています。前回調査と比較すると、「問題があり、改善したいと思う」が8.4ポイント減少しています。



② 食生活の乱れを感じているか

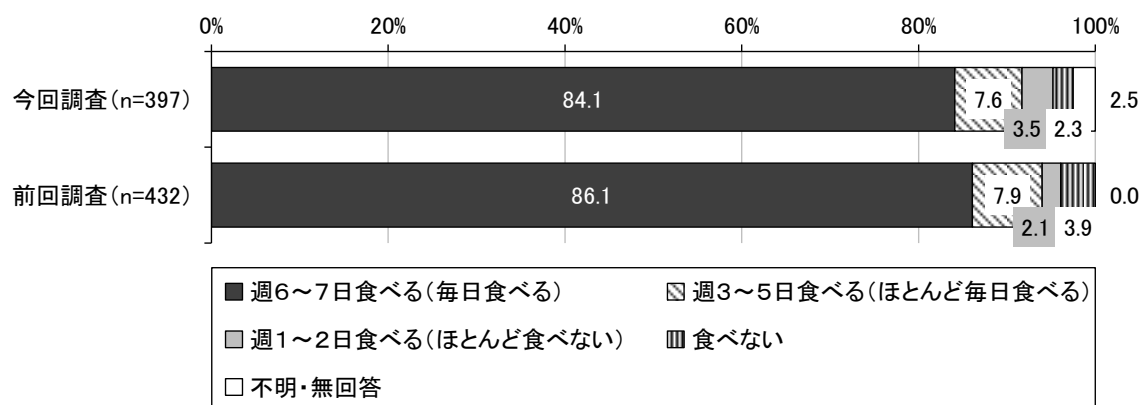
「感じていない」が62.2%と、「感じている」の35.3%を上回っています。前回調査と比較すると、「感じている」が8.0ポイント減少しています。



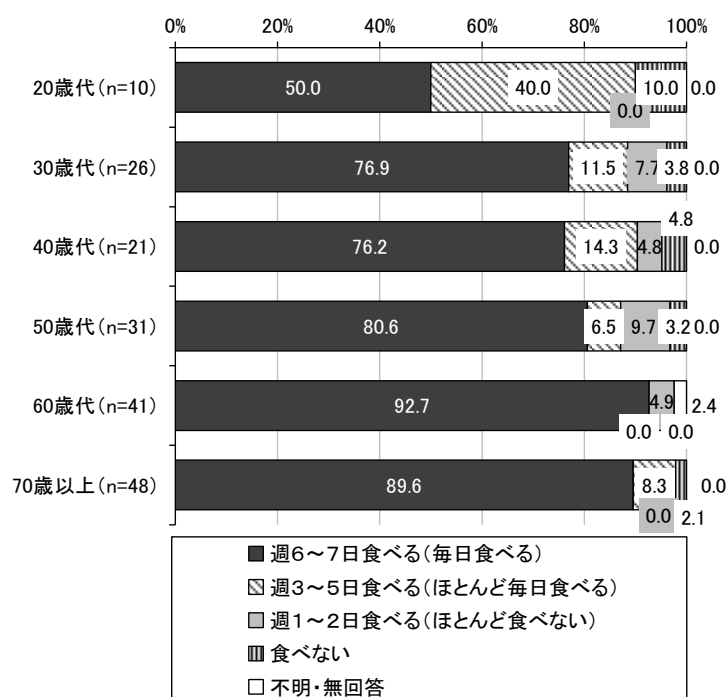
③ 朝食を食べているか

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

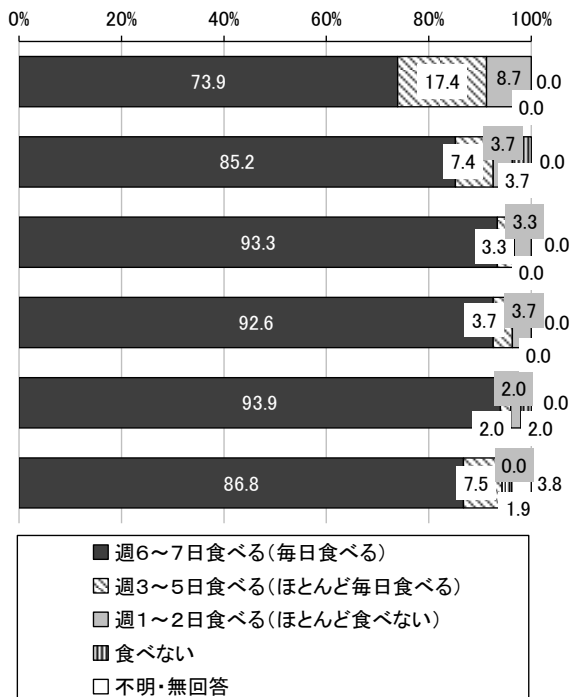
性別・年齢別にみると、男性、女性ともに 20 歳代で「週 6～7 日食べる（毎日食べる）」が他の年齢と比べて低くなっています。



【男性・年齢別】

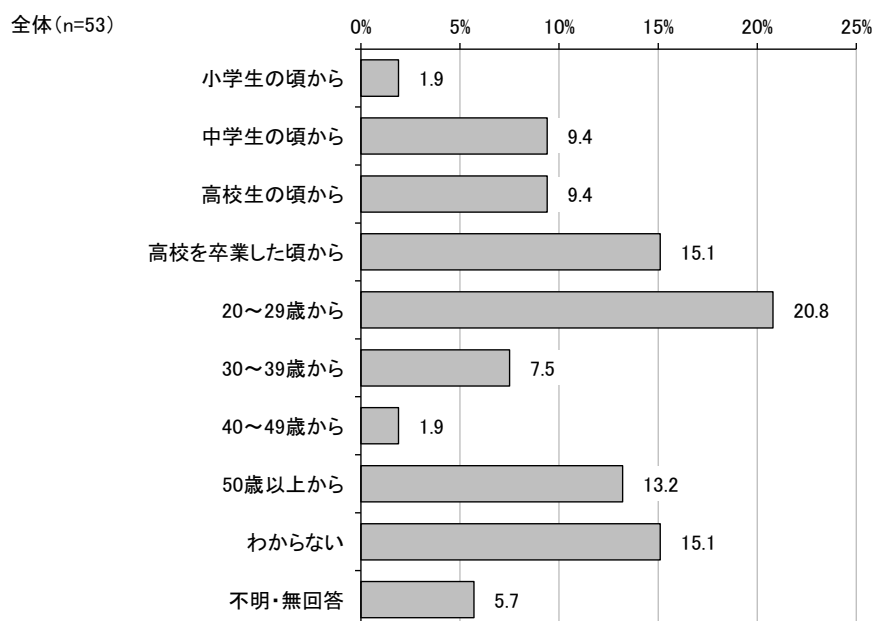


【女性・年齢別】



④ 朝食を欠食するようになった時期

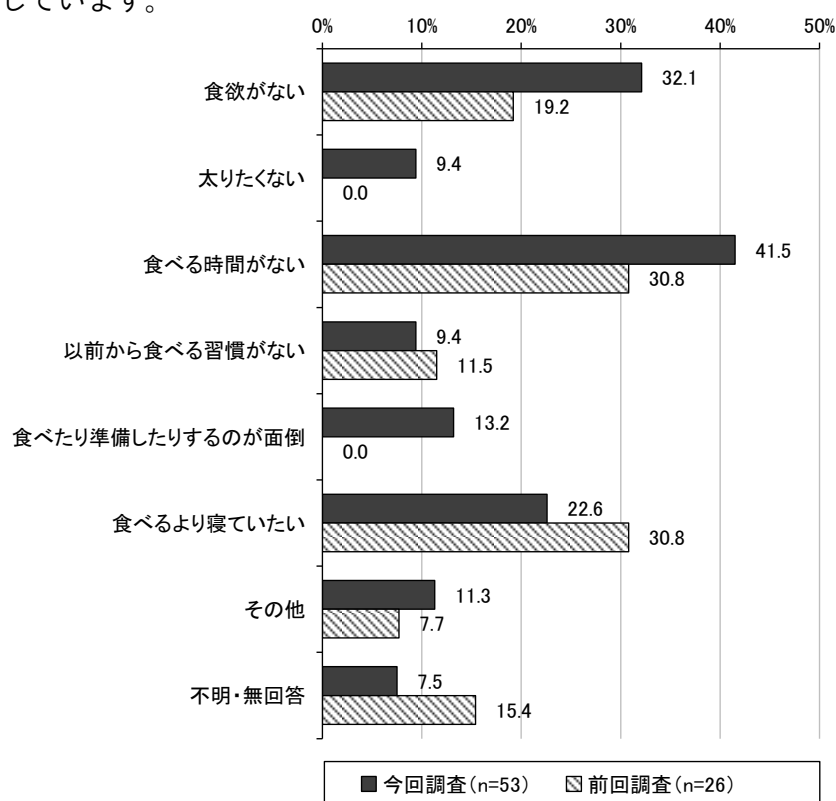
「20～29 歳から」が 20.8%と最も高く、次いで「高校を卒業した頃から」「わからない」が 15.1%、「50 歳以上から」が 13.2%となっています。



⑤ 朝食を食べない理由

「食べる時間がない」が 41.5%と最も高く、次いで「食欲がない」が 32.1%、「食べるより寝ていたい」が 22.6%となっています。

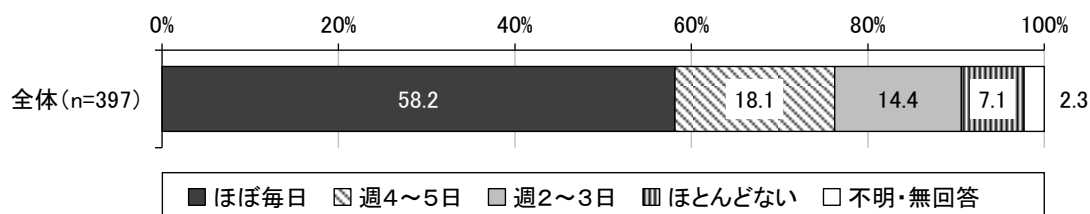
前回調査と比較すると、「食欲がない」が 12.9 ポイント、「食べる時間がない」が 10.7 ポイント増加しています。



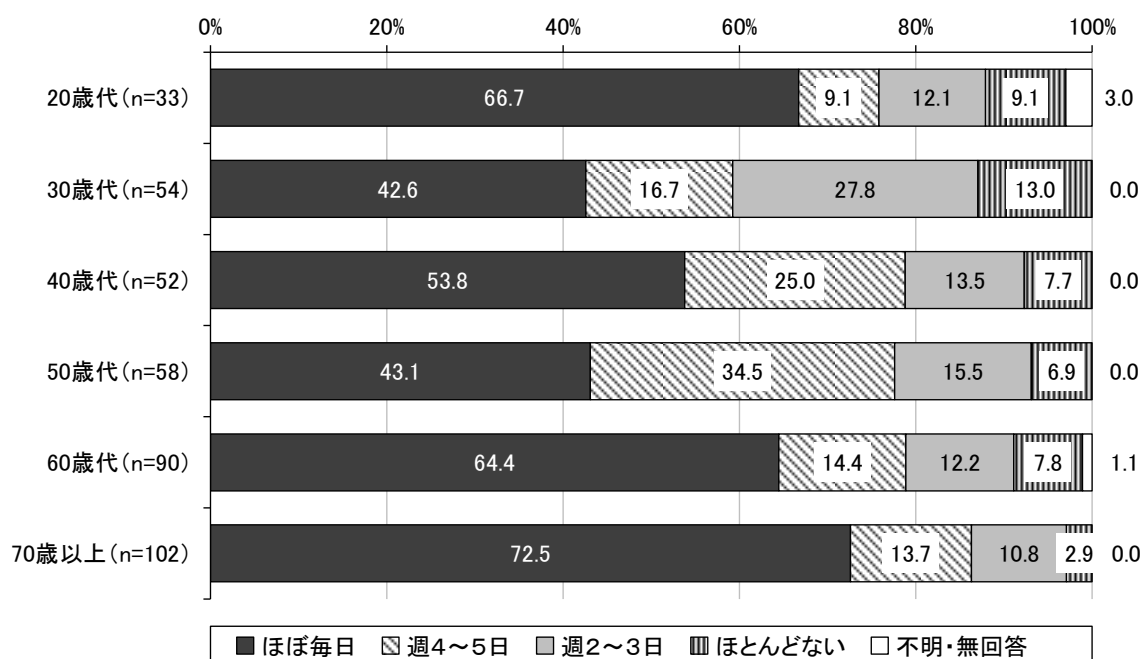
⑥ 1日に2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度

「ほぼ毎日」が58.2%と最も高く、次いで「週4～5日」が18.1%、「週2～3日」が14.4%となっています。

年齢別にみると、30歳代、50歳代では「ほぼ毎日」が他の年齢と比べて低くなっています。



【年齢別】



※主食 … ご飯・パン・めんなど

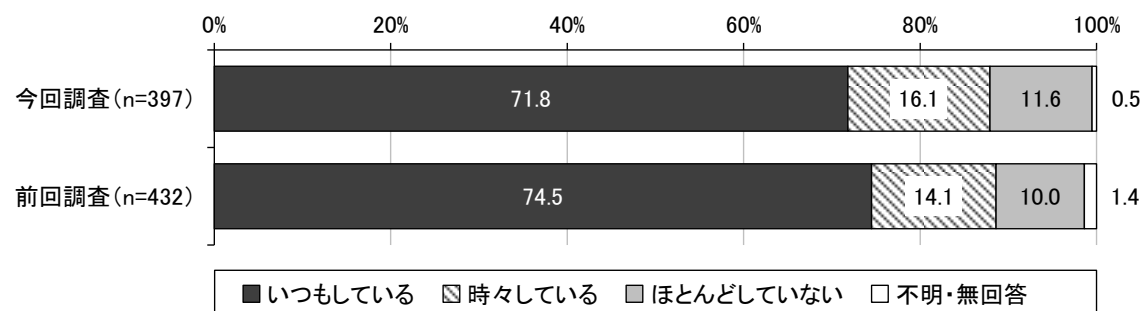
主菜 … 肉・魚・卵・大豆料理などが中心のおかず

副菜 … 野菜、海藻、きのこなどを使ったおかず

⑦ 1日1回以上、2人以上で食事をしているか

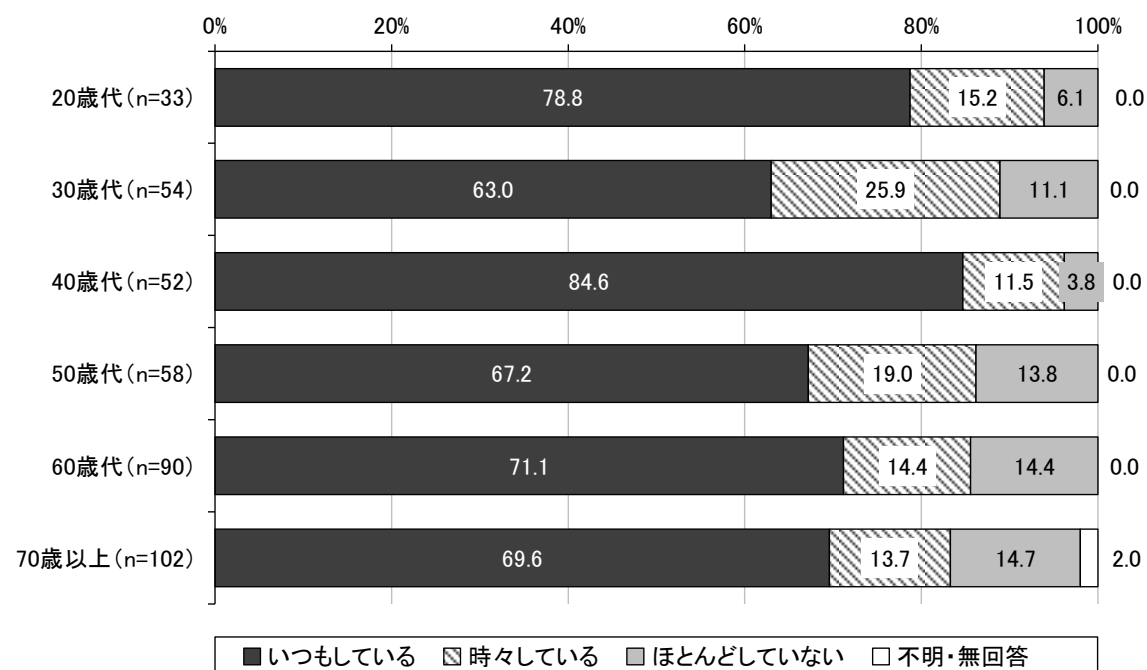
「いつもしている」が71.8%と最も高く、次いで「時々している」が16.1%、「ほとんどしていない」が11.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査の設問「1日1食以上、2人以上で食事をする頻度」

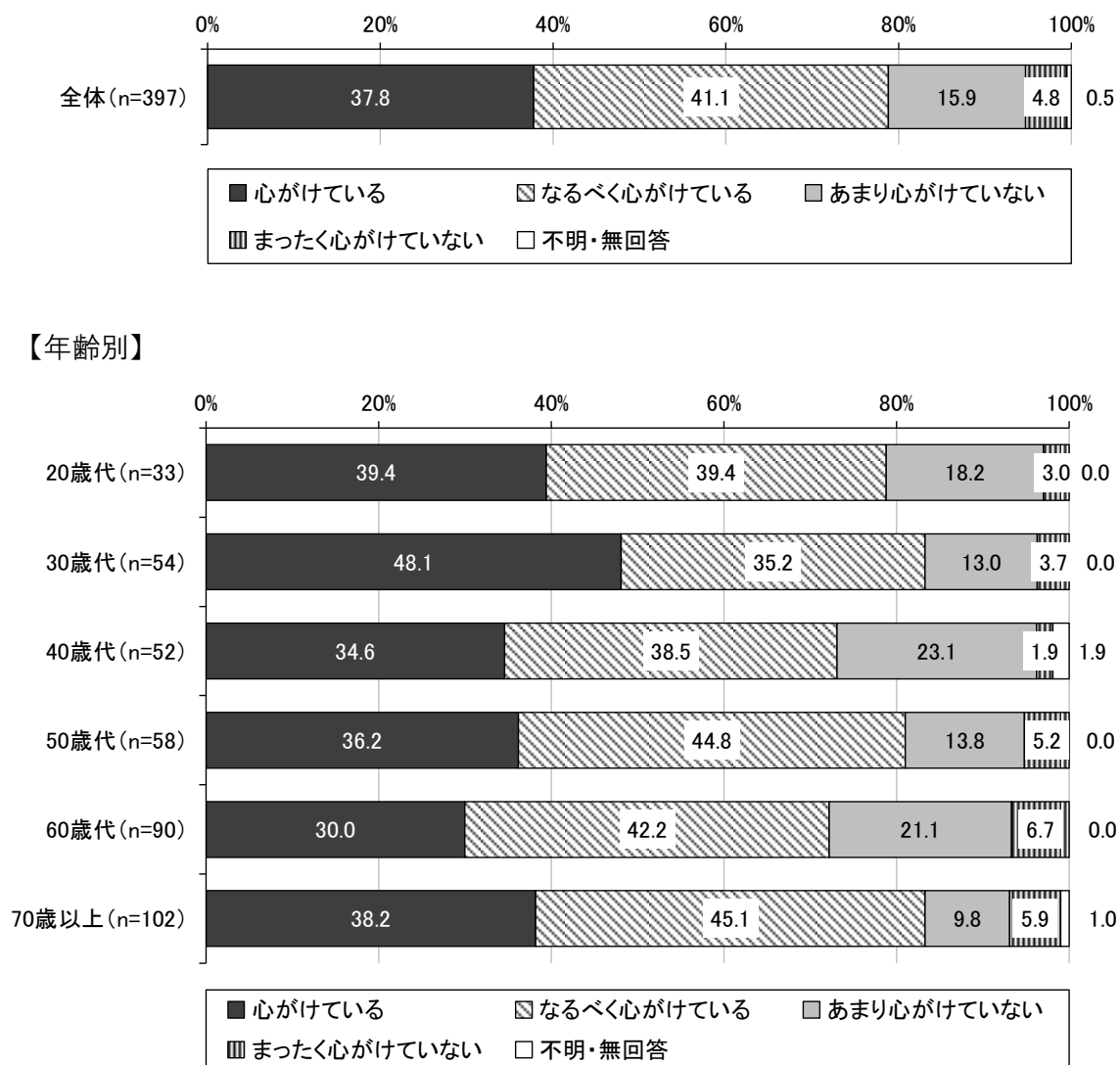
【年齢別】



⑧ 家族や友人との食事を通じたコミュニケーションを心がけているか

「なるべく心がけている」が41.1%と最も高く、次いで「心がけている」が37.8%、「あまり心がけていない」が15.9%となっています。

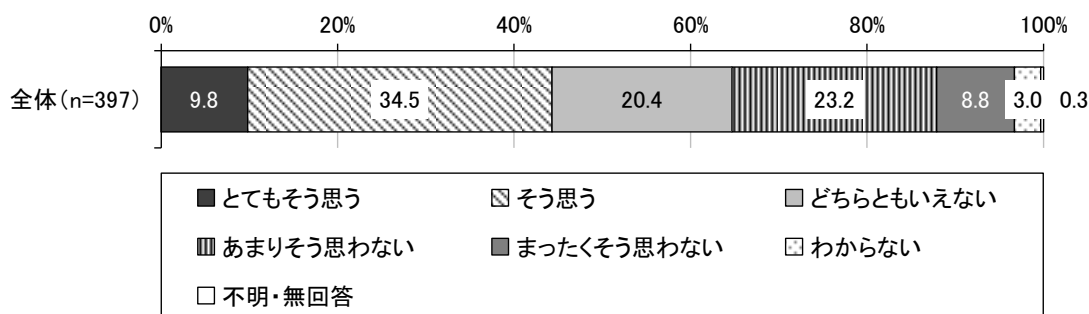
年齢別にみると、20歳代では「心がけている」「なるべく心がけている」、30歳代では「心がけている」、その他の年齢では「なるべく心がけている」が最も高くなっています。



⑨ 地域や所属コミュニティ（職場等を含む）での食事会等の機会があれば、参加したいと思うか

※新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が十分に取られているという前提

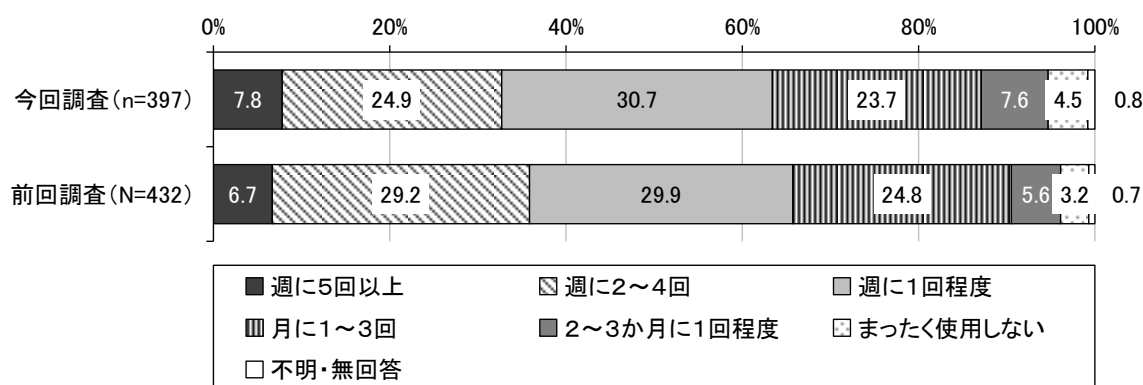
「そう思う」が34.5%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が23.2%、「どちらともいえない」が20.4%となっています。



⑩ そう菜や弁当、レトルト食品など調理済み食品の使用頻度

「週に1回程度」が30.7%と最も高く、次いで「週に2～4回」が24.9%、「月に1～3回」が23.7%となっています。

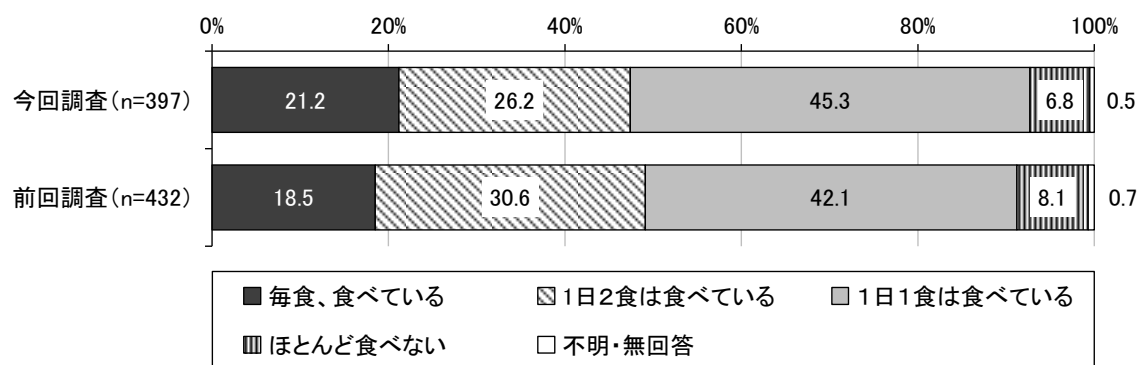
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



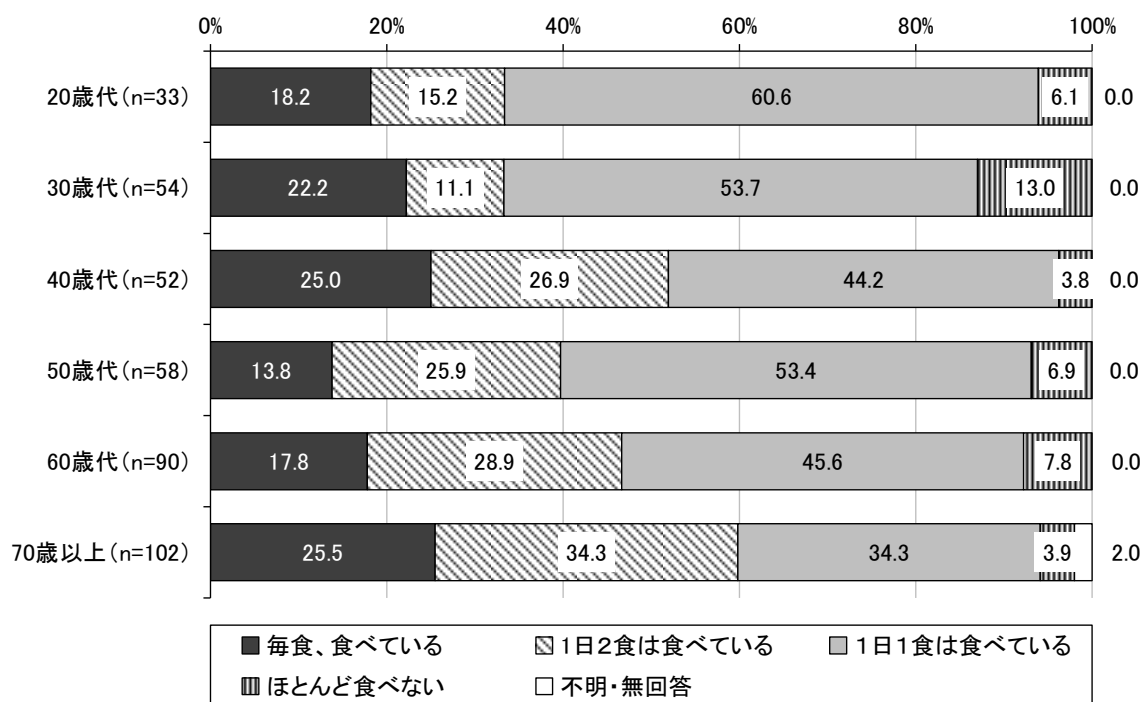
※前回調査の設問「調理済みの食品やインスタント食品の使用頻度」

⑪ 1日の食事で野菜をどれくらい食べるか

「1日1食は食べている」が45.3%と最も高く、次いで「1日2食は食べている」が26.2%、「毎食、食べている」が21.2%となっています。



【年齢別】

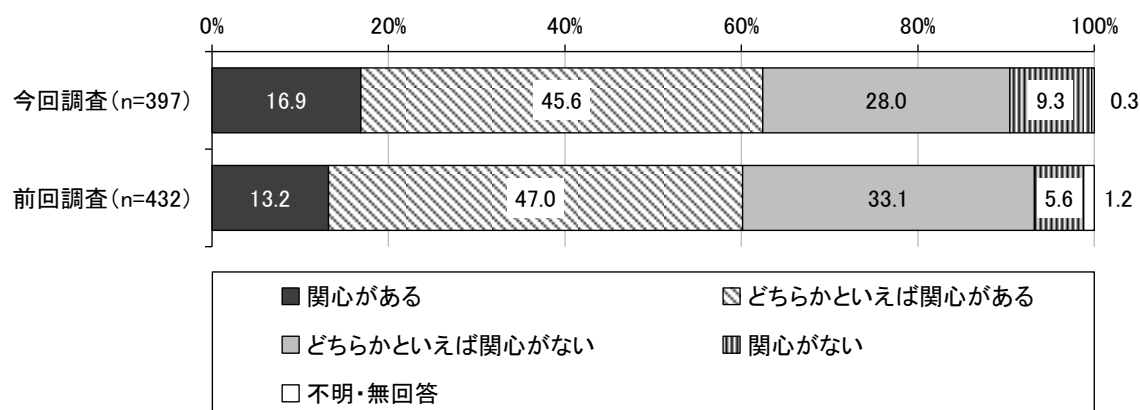


⑫ 「噛み方」「味わい方」といった食べ方への関心の有無

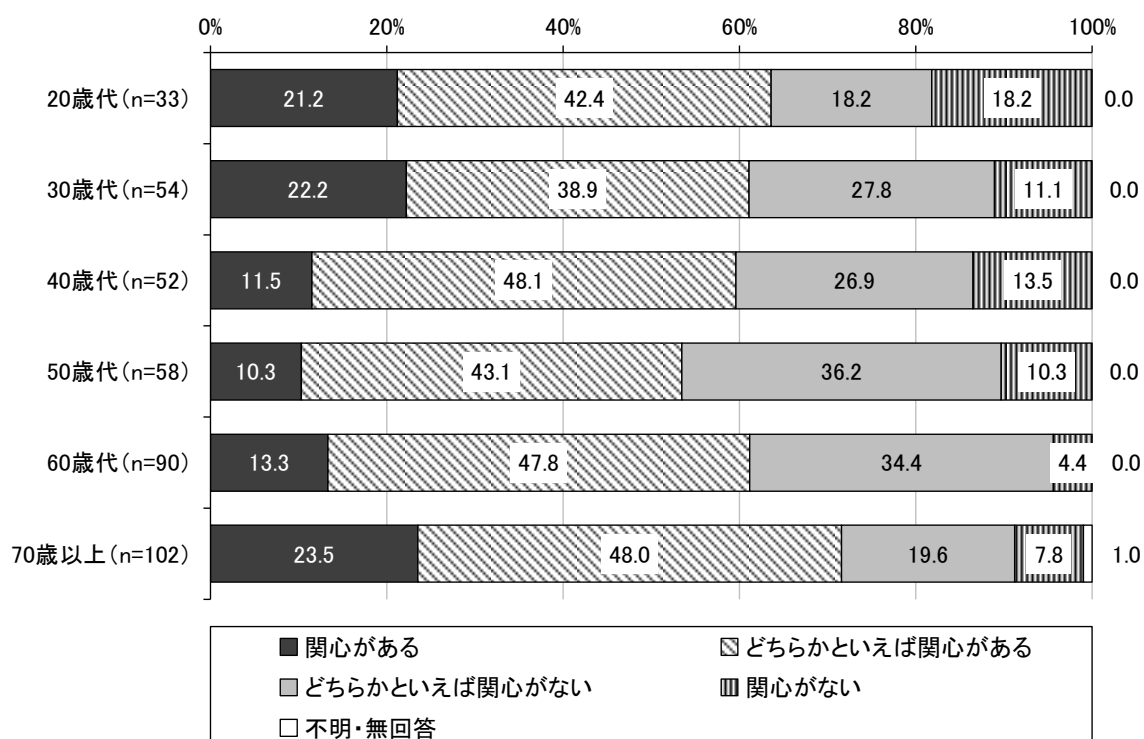
「どちらかといえば関心がある」が45.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」が28.0%、「関心がある」が16.9%となっています。

前回調査と比較すると、「どちらかといえば関心がない」が5.1ポイント減少しています。

年齢別にみると、70歳以上では『関心がある（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の計）』が他の年齢と比べて高くなっています。



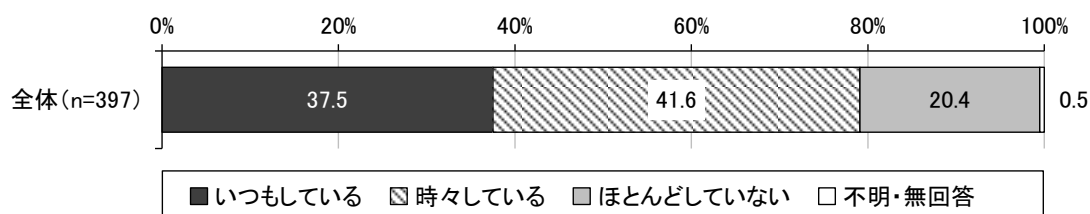
【年齢別】



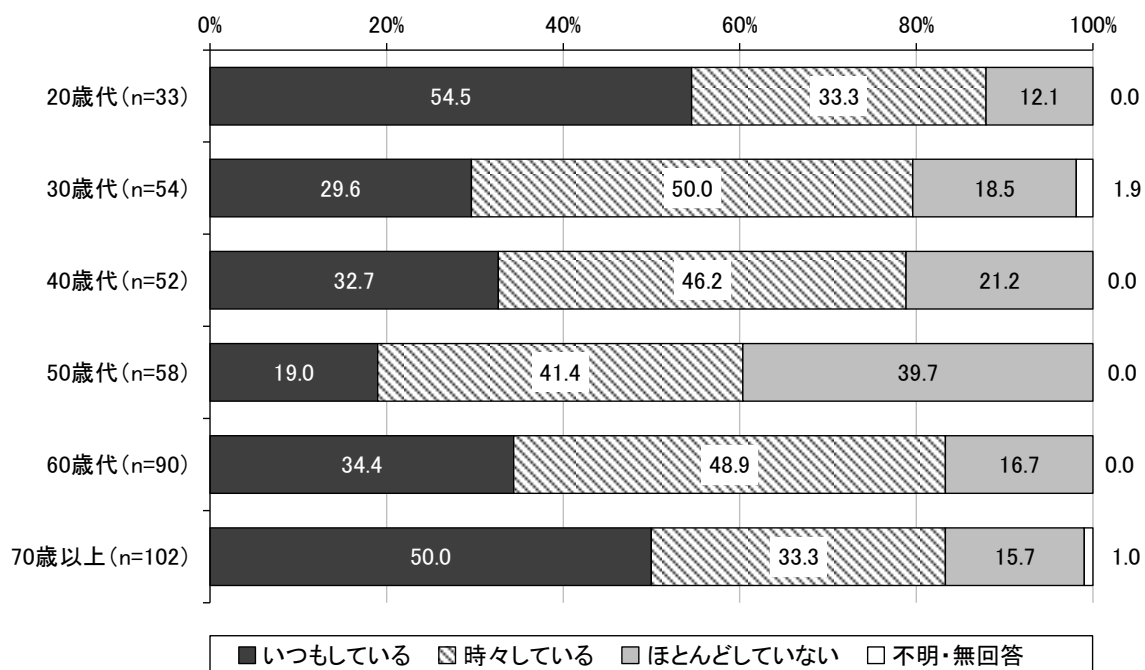
⑬ ふだんよく噛んで食べているか

「時々している」が41.6%と最も高く、次いで「いつもしている」が37.5%、「ほとんどしていない」が20.4%となっています。

年齢別にみると、50歳代では「ほとんどしていない」が他の年齢と比べて高くなっています。



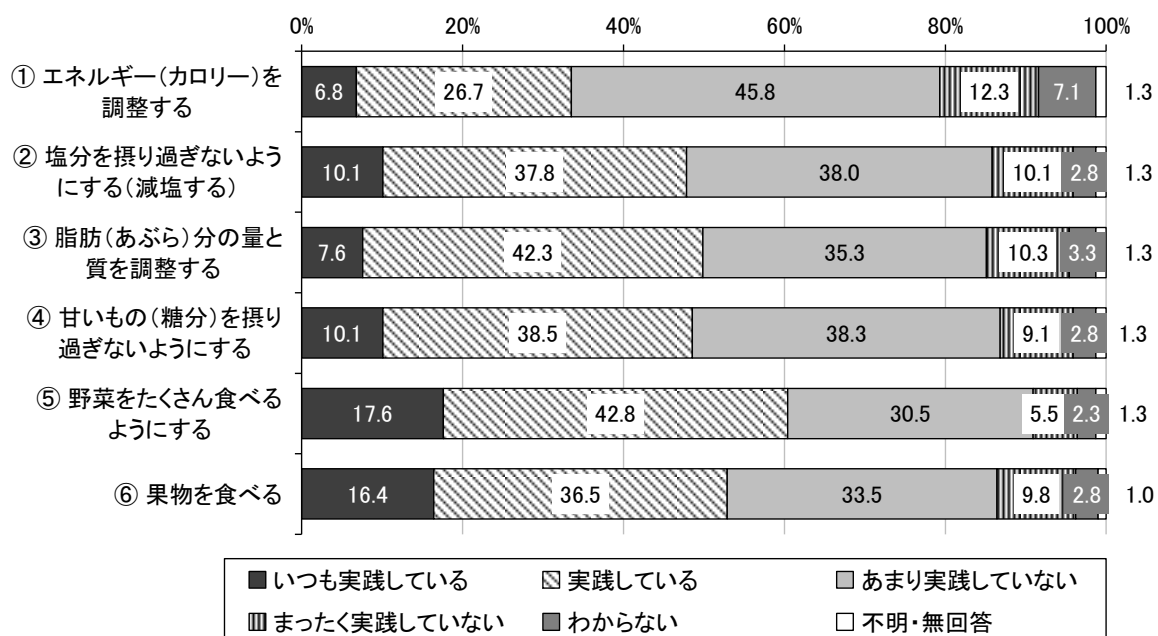
【年齢別】



⑭ 生活習慣病の予防や改善について、どの程度実践しているか

〔⑤ 野菜をたくさん食べるようにする〕では『実践している（「いつも実践している」と「実践している」の計）』が約6割と他の項目と比べて高く、〔① エネルギー（カロリー）を調整する〕では3割台と他の項目と比べて低くなっています。

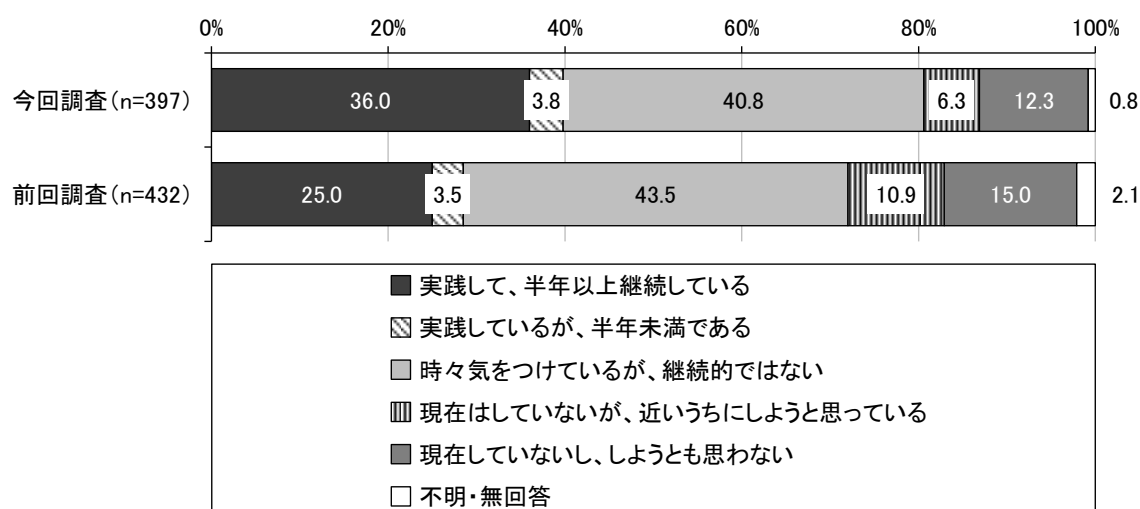
(n=397)



⑮ メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のために、①適切な食事、②定期的な運動、③週に複数回の体重計測、のいずれかを実践していますか

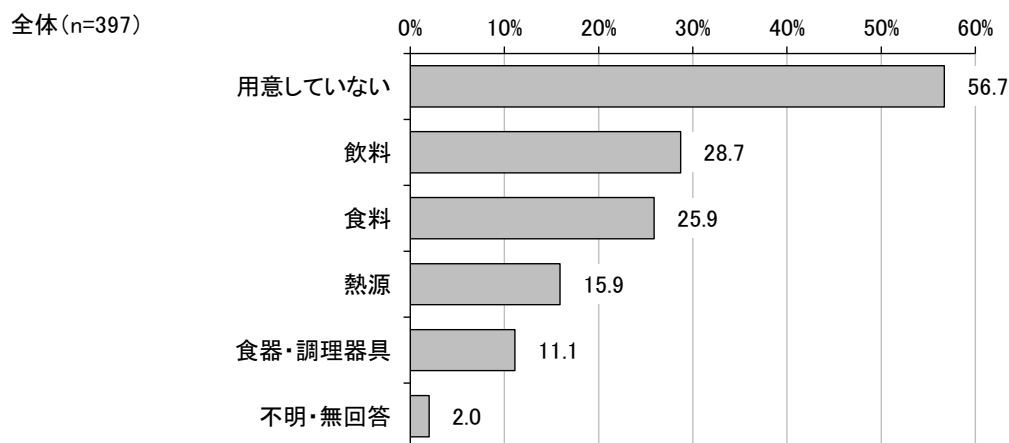
「時々気をつけているが、継続的ではない」が40.8%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」が36.0%、「現在していないし、しようとも思わない」が12.3%となっています。

前回調査と比較すると、「実践して、半年以上継続している」が11.0ポイント増加しています。



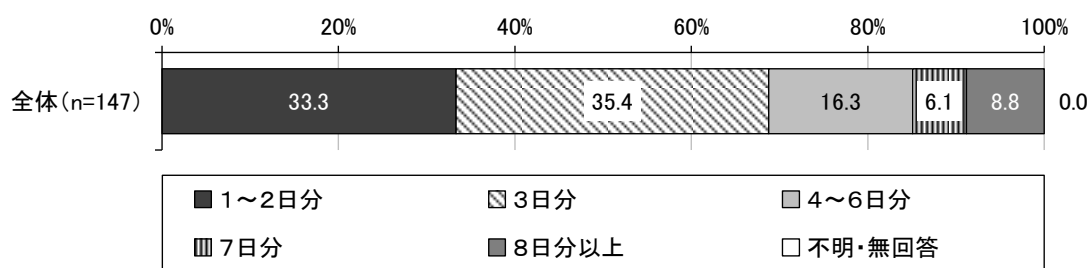
⑩ 家庭で、災害に備え非常用の飲食料・食器・熱源などを用意しているか

「用意していない」が 56.7%と最も高く、次いで「飲料」が 28.7%、「食料」が 25.9%となっています。



⑪ 家庭での備蓄は家族全員で何日分か

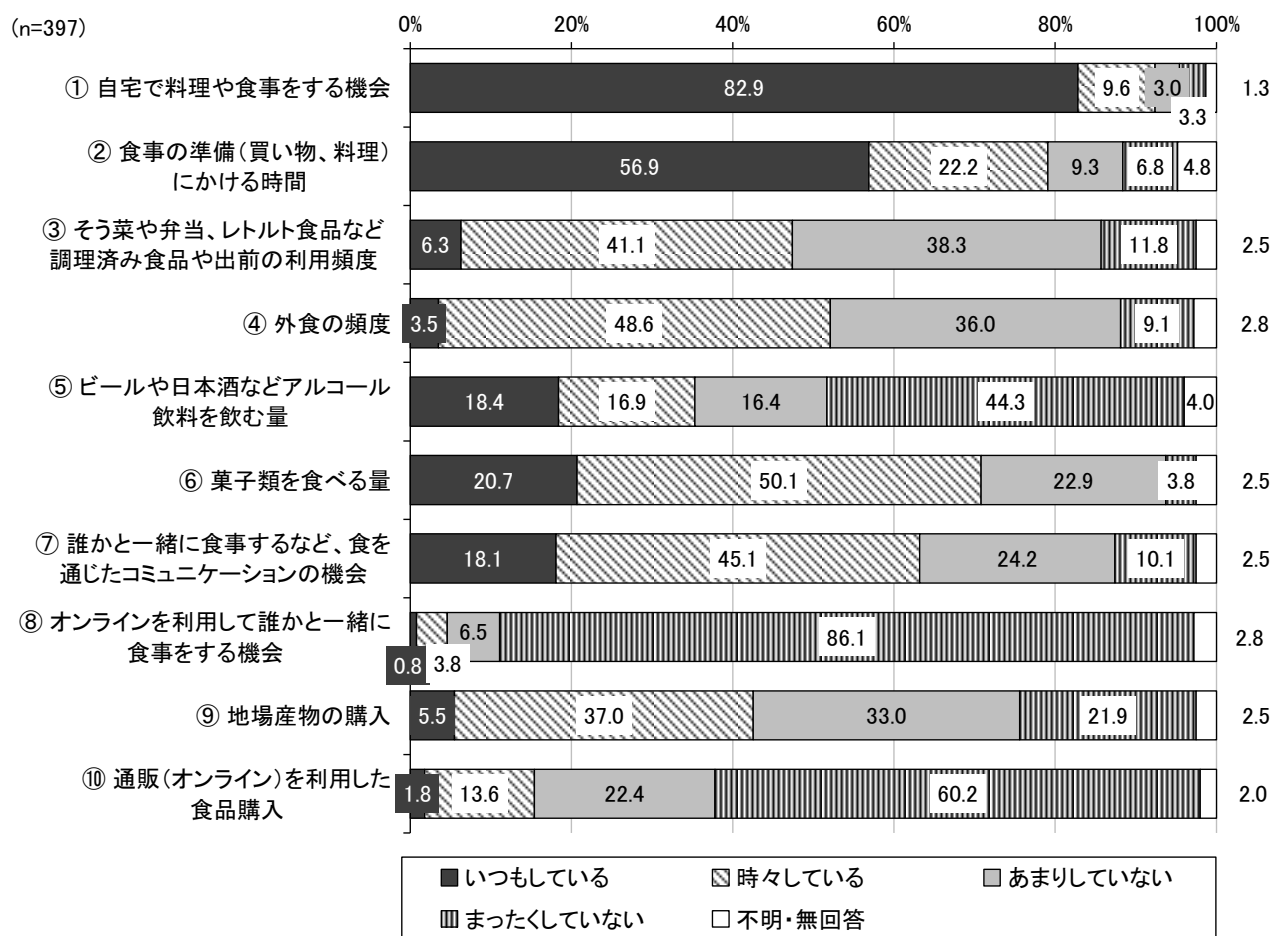
「3日分」が 35.4%と最も高く、次いで「1～2日分」が 33.3%、「4～6日分」が 16.3%となっています。



⑬ 新型コロナウイルス感染症の拡大前と比べて変化があったか

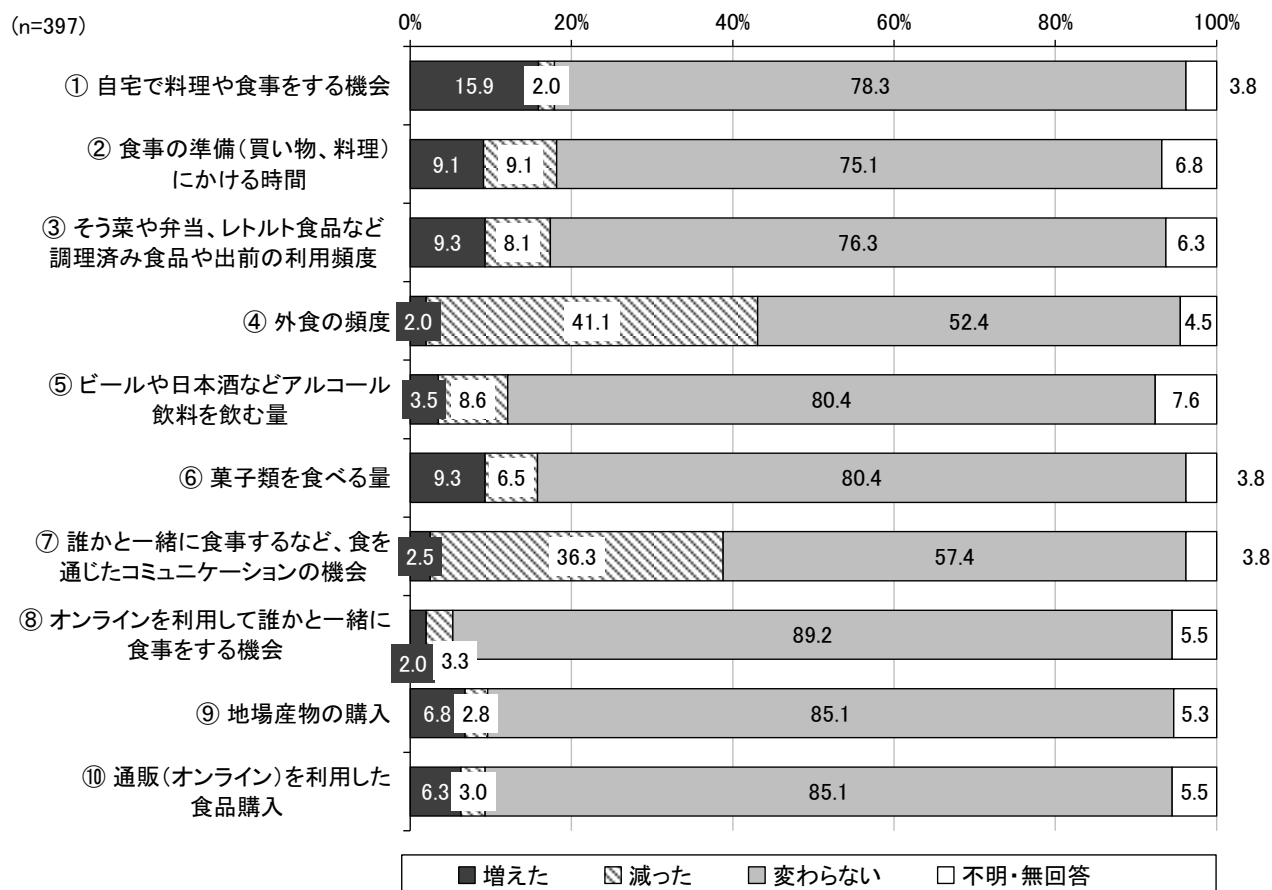
A 新型コロナウイルス感染症流行前の状況

〔① 自宅で料理や食事をする機会〕〔② 食事の準備（買い物、料理）にかかる時間〕では「いつもしている」が5割以上と他の項目と比べて高くなっています。また、〔⑧ オンラインを利用して誰かと一緒に食事をする機会〕〔⑩ 通販（オンライン）を利用した食品購入〕では「まったくしていない」が6割以上と他の項目と比べて高くなっています。



B 流行前と比べた現在（令和4年10月）の状況

いずれの項目も「変わらない」が最も高くなっていますが、[④ 外食の頻度][⑦ 誰かと一緒に食事するなど、食を通じたコミュニケーションの機会]では「減った」が約4割と他の項目と比べて高くなっています。



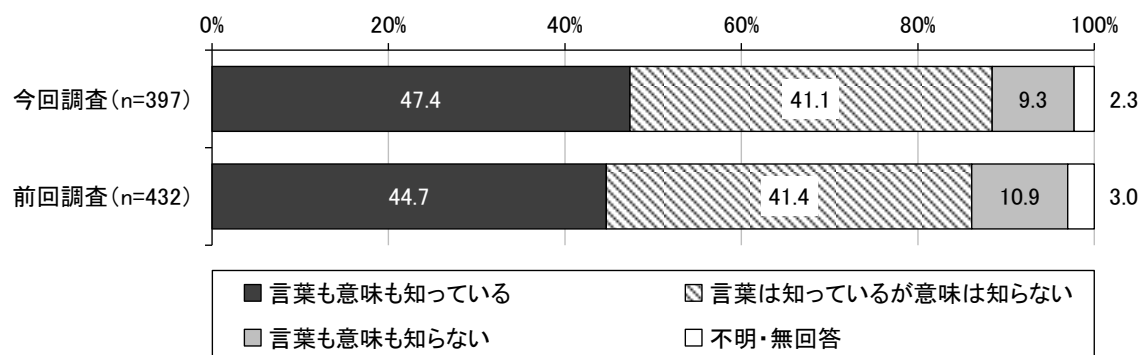
3. 食育について

① 「食育」という言葉の認知度

「言葉も意味も知っている」が47.4%と最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」が41.1%、「言葉も意味も知らない」が9.3%となっています。

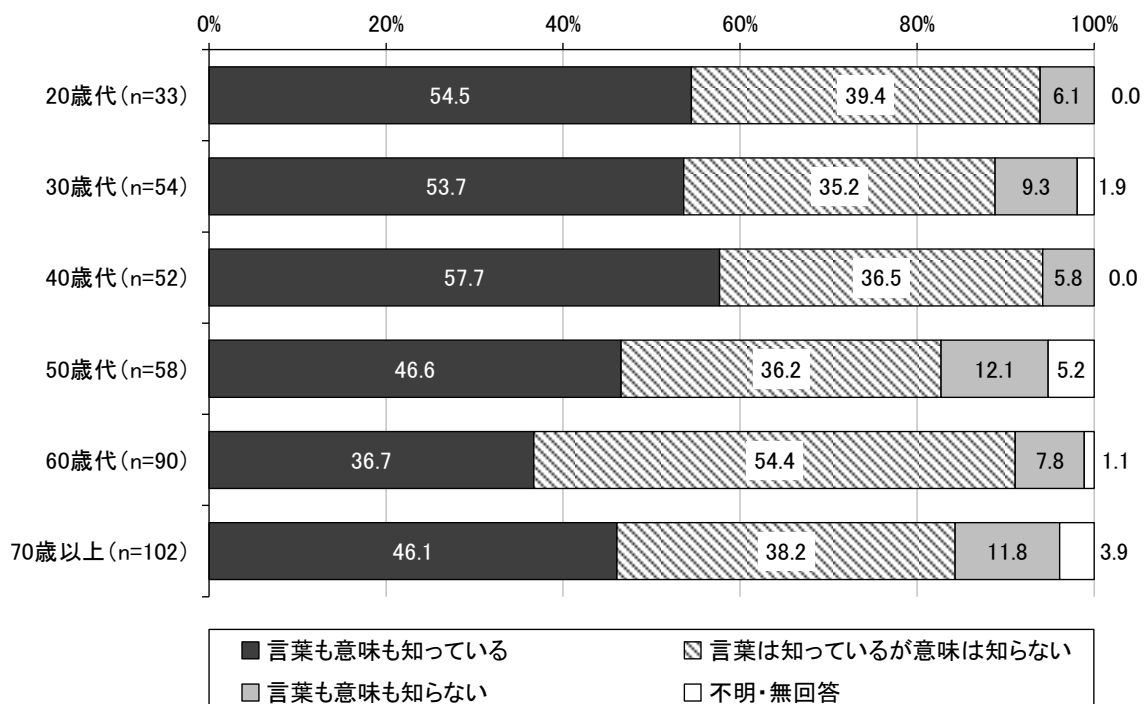
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別にみると、60歳代では「言葉は知っているが意味は知らない」、その他の年齢では「言葉も意味も知っている」が最も高くなっています。



※「食育」とは、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

【年齢別】

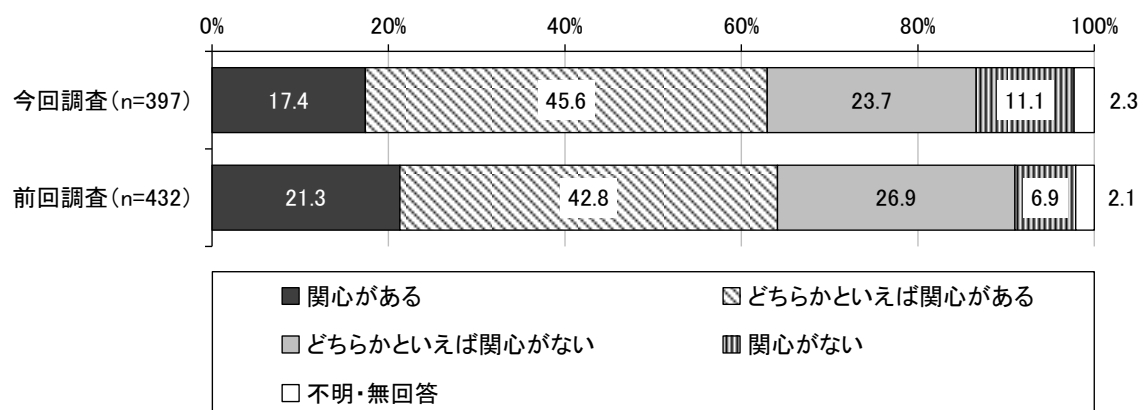


② 「食育」への関心の有無

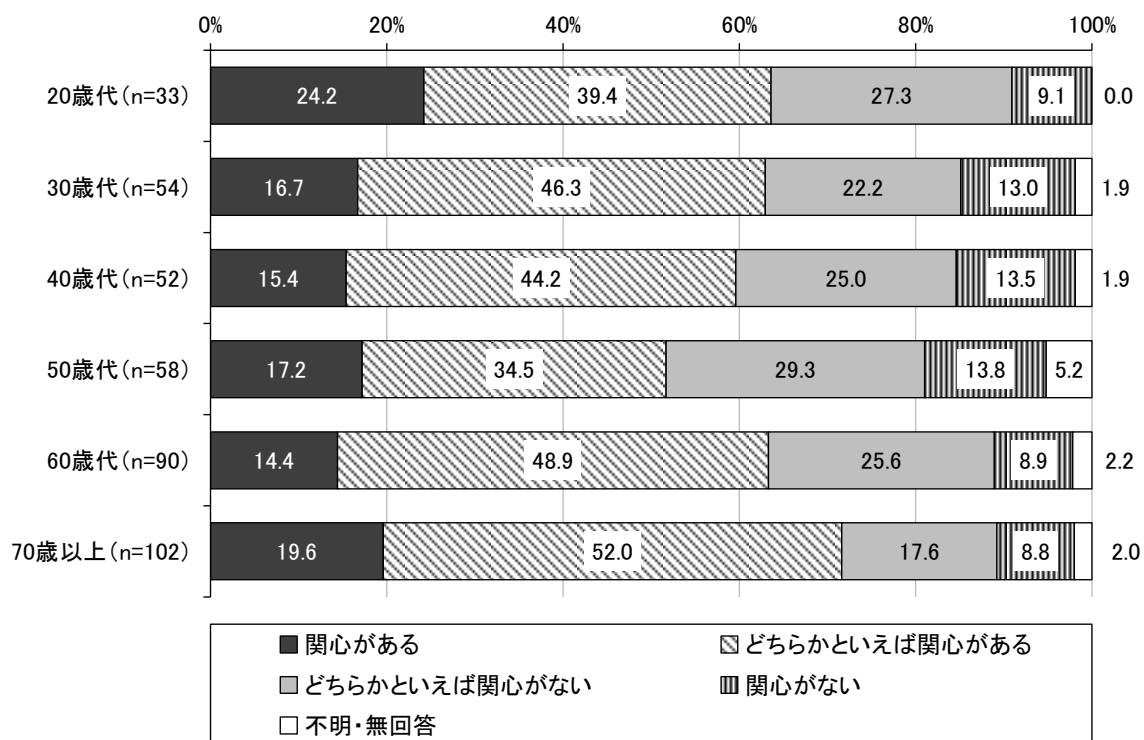
「どちらかといえば関心がある」が45.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」が23.7%、「関心がある」が17.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別にみると、70歳以上では『関心がある』が他の年齢と比べて高くなっています。



【年齢別】



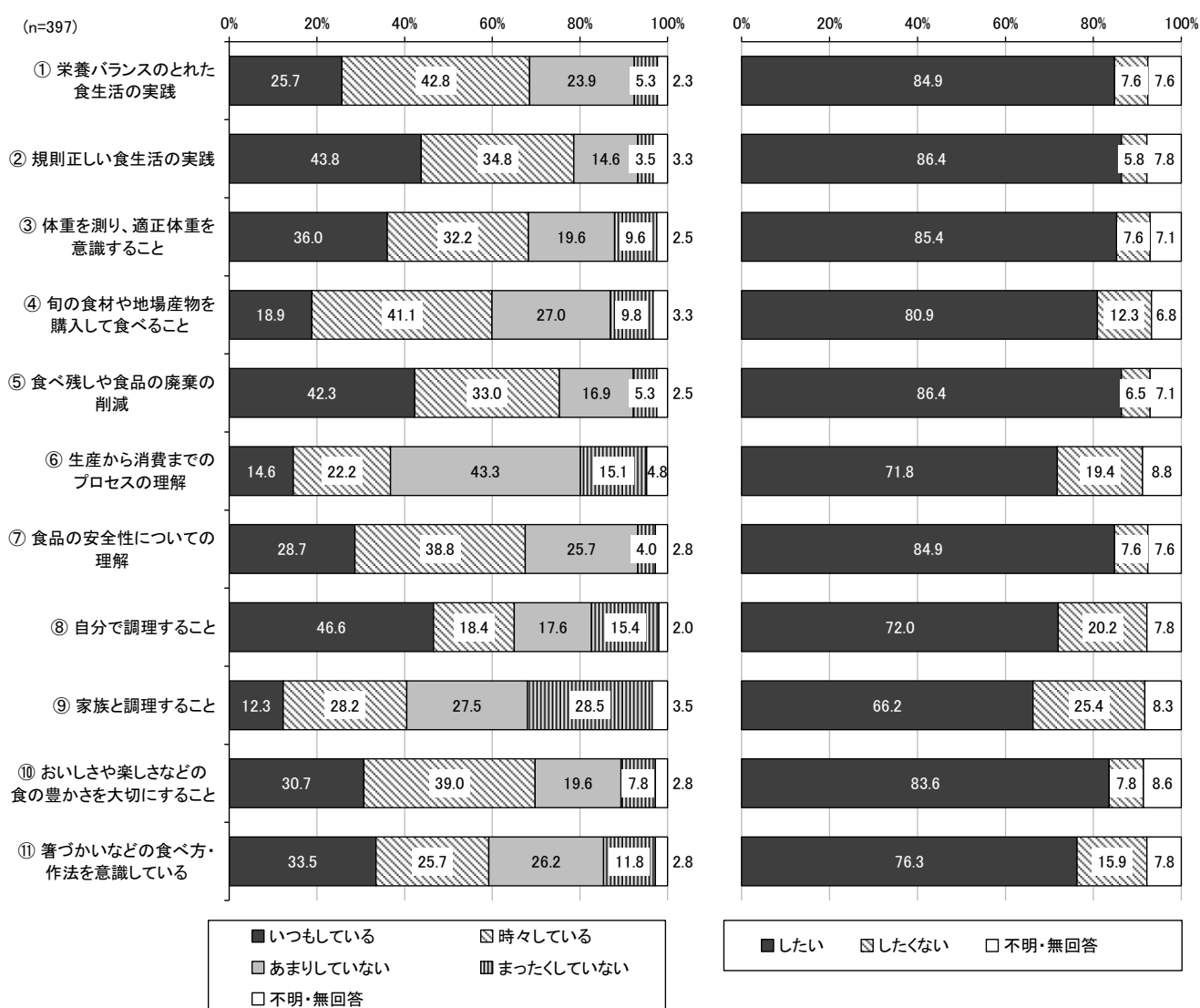
③ 日頃から「食育」の取り組みとして、どのようなことを実践しているか

現在の状況についてみると、[② 規則正しい食生活の実践] [⑤ 食べ残しや食品の廃棄の削減] では『実践している（「いつもしている」と「時々している」の計）』が7割以上と他の項目と比べて高くなっています。また、[⑥ 生産から消費までのプロセスの理解] [⑨ 家族と調理すること] では『実践している』が約4割と他の項目と比べて低くなっています。

今後の意向についてみると、いずれの項目も「したい」が「したくない」を上回っています。

【A 現在の状況】

【B 今後の意向】

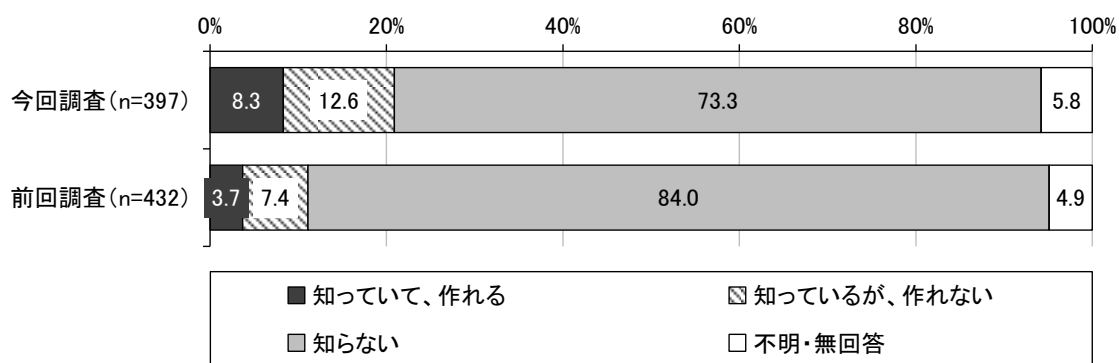


4. 地域の食文化等について

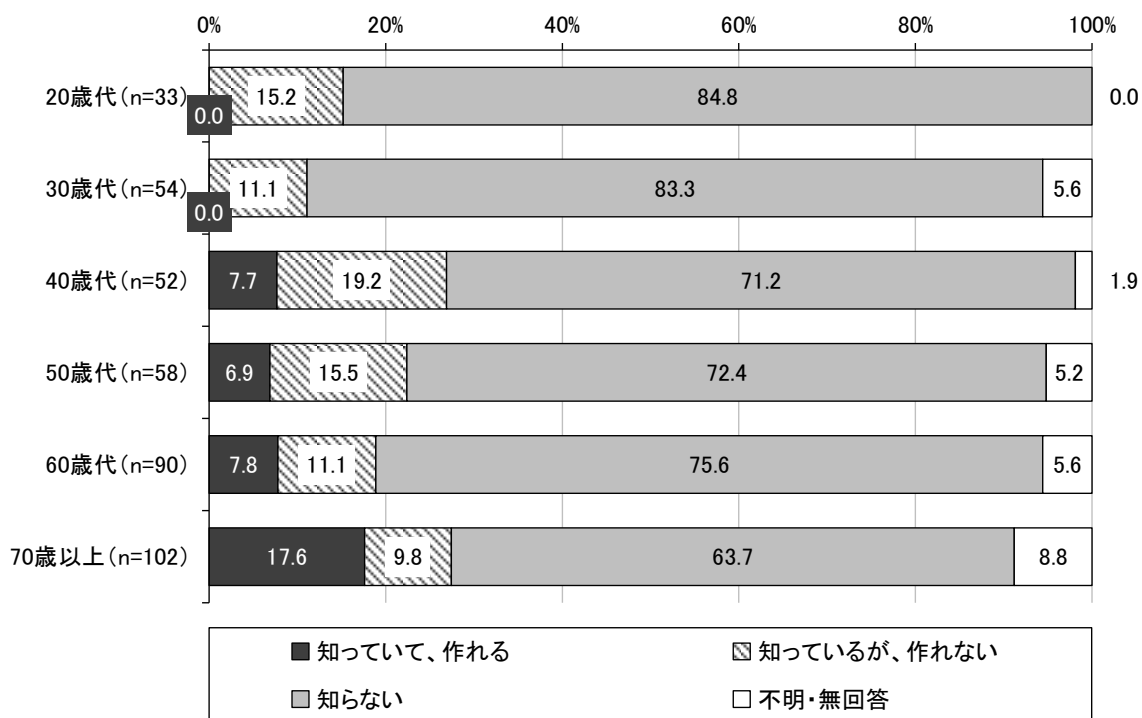
① 今住んでいる地域の郷土料理（ふるさと料理）を知っているか。また、作れるか

「知らない」が73.3%と最も高く、次いで「知っているが、作れない」が12.6%、「知っている、作れる」が8.3%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が10.7ポイント減少しています。

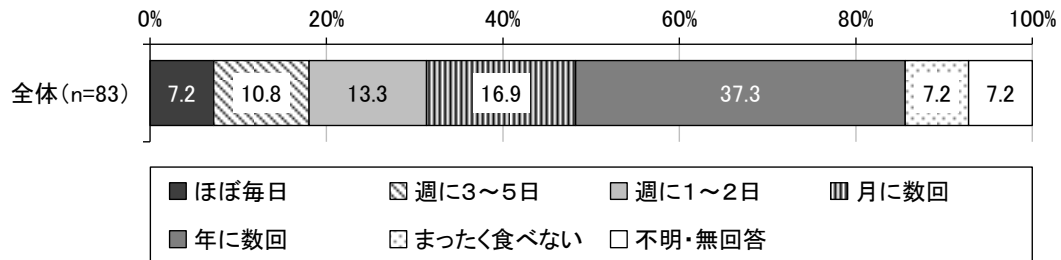


【年齢別】



② 郷土料理や伝統料理を食べる頻度

「年に数回」が 37.3%と最も高く、次いで「月に数回」が 16.9%、「週に1～2日」が 13.3%となっています。



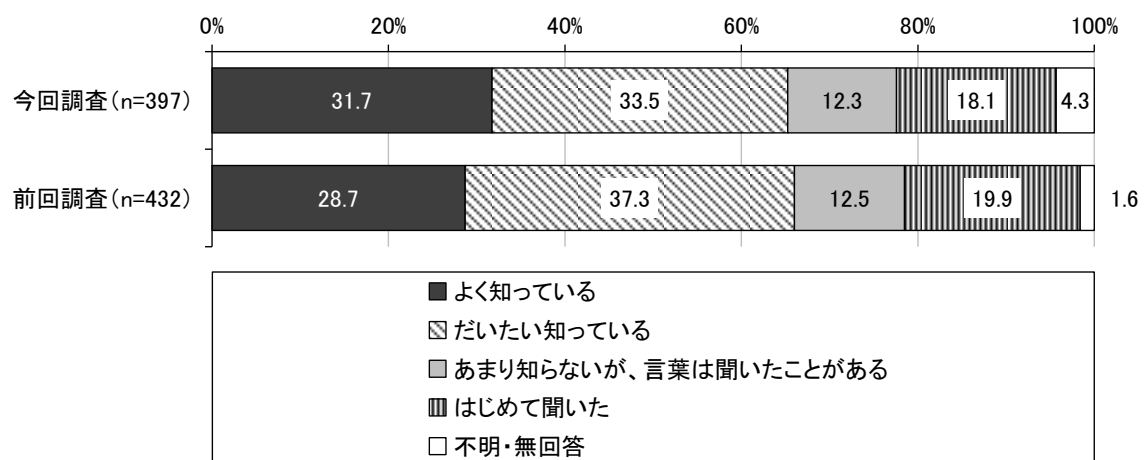
※郷土料理（ふるさと料理）や伝統料理は、地域特有の料理や地元食材を使った料理、古くから受け継がれてきた料理のことです。年中行事等で食べる行事食だけでなく、いわゆる「おふくろの味」など、その家庭で受け継がれてきた家庭料理も含まれます。

5. 加西市の“農”に触れる機会について

① 「地産地消」という言葉の認知度

「だいたい知っている」が 33.5%と最も高く、次いで「よく知っている」が 31.7%、「はじめて聞いた」が 18.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

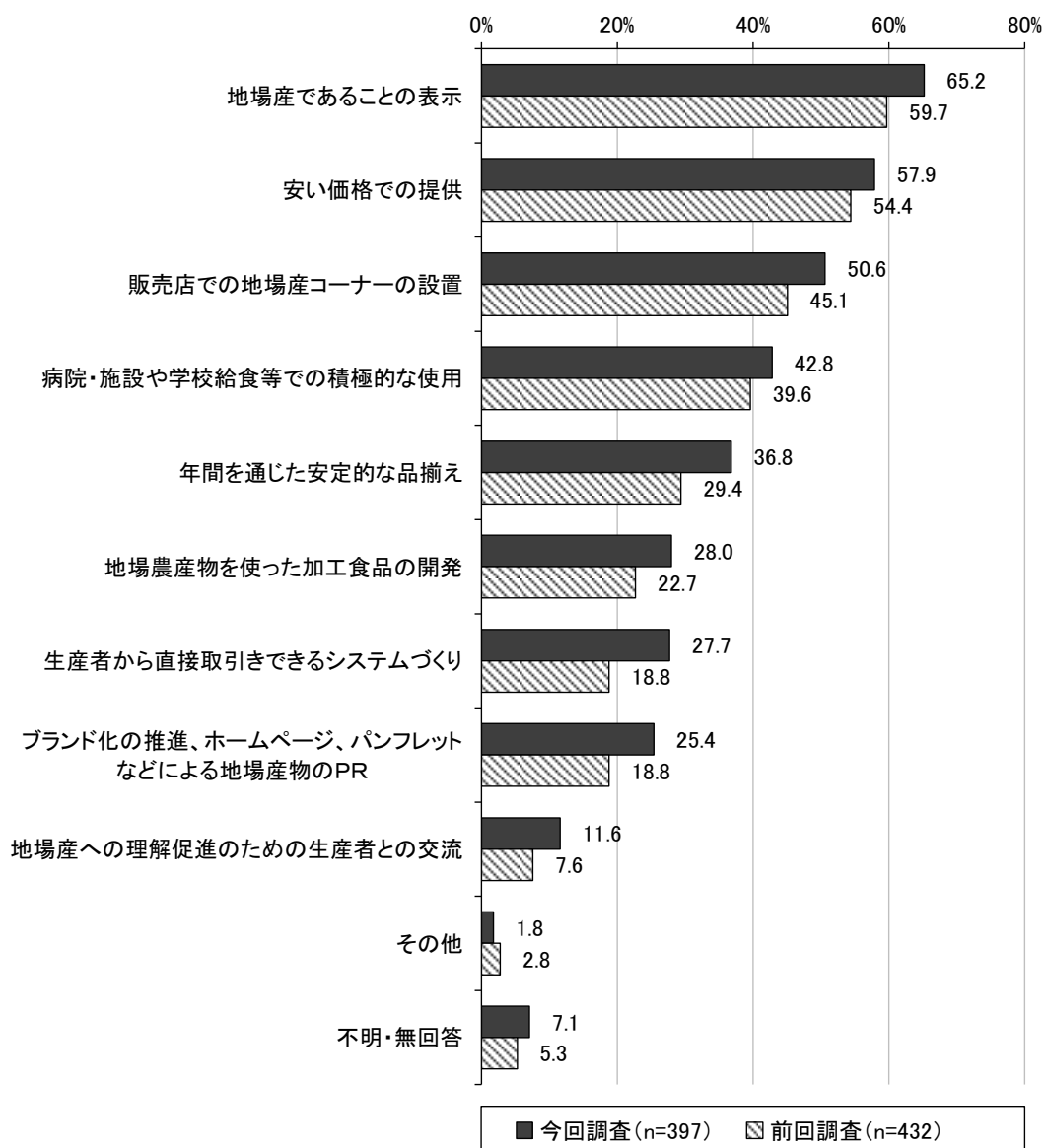


※前回調査の選択肢「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」「内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」「はじめて聞いた」

② 「地産地消」を推進する上で必要だと思うこと

「地場産であることの表示」が65.2%と最も高く、次いで「安い価格での提供」が57.9%、「販売店での地場産コーナーの設置」が50.6%となっています。

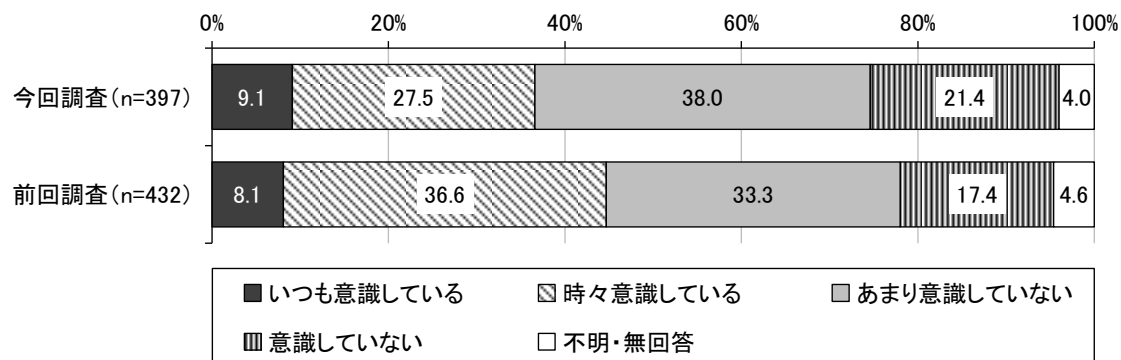
前回調査と比較すると、「年間を通じた安定的な品揃え」が7.4ポイント、「生産者から直接取引できるシステムづくり」が8.9ポイント、「ブランド化の推進、ホームページ、パンフレットなどによる地場産物のPR」が6.6ポイント増加しています。



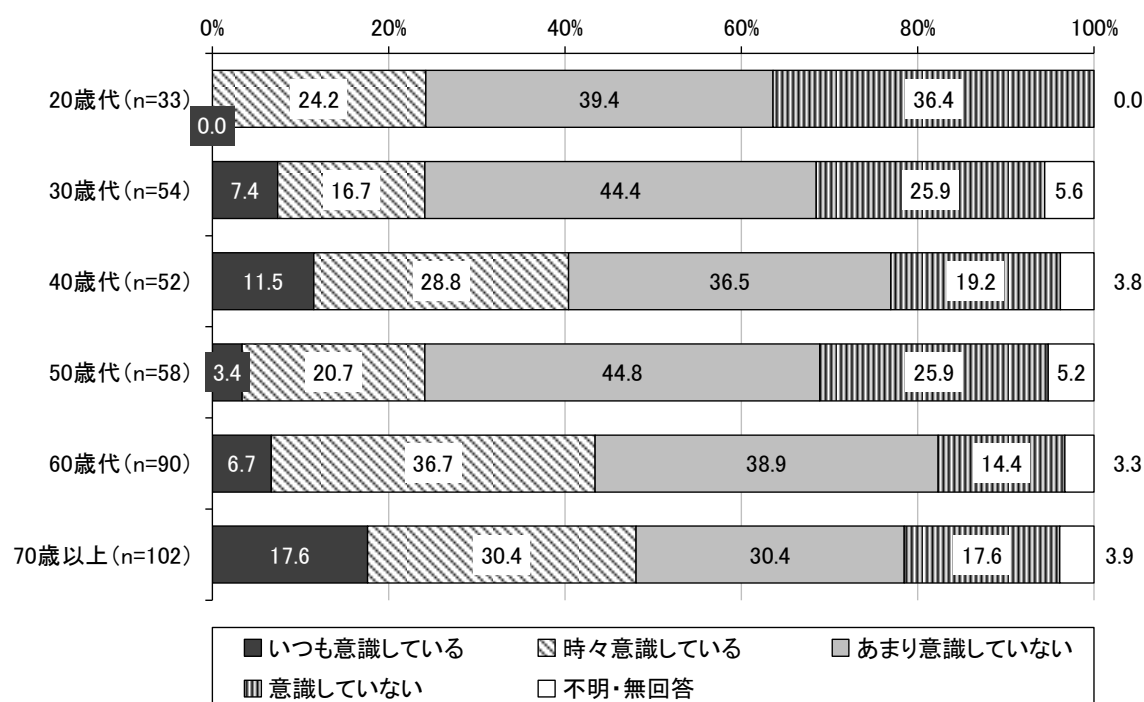
③ 加西市産の農産物を意識して購入しているか

「あまり意識していない」が38.0%と最も高く、次いで「時々意識している」が27.5%、「意識していない」が21.4%となっています。

前回調査と比較すると、「時々意識している」が9.1ポイント減少しています。

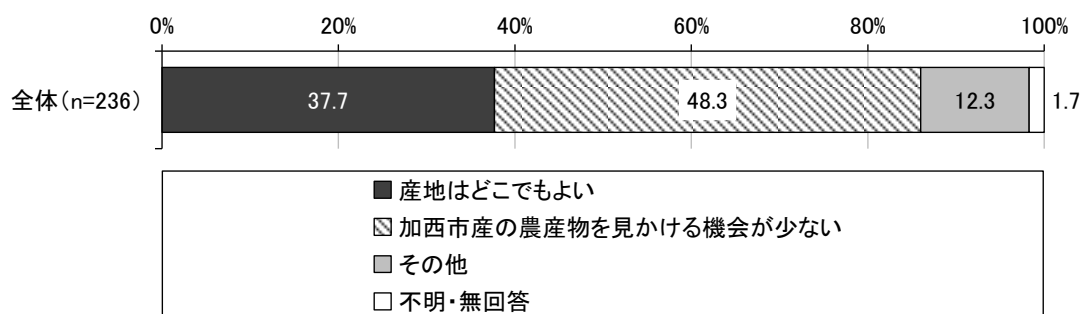


【年齢別】



④ 加西市産の農産物を意識して購入していない理由

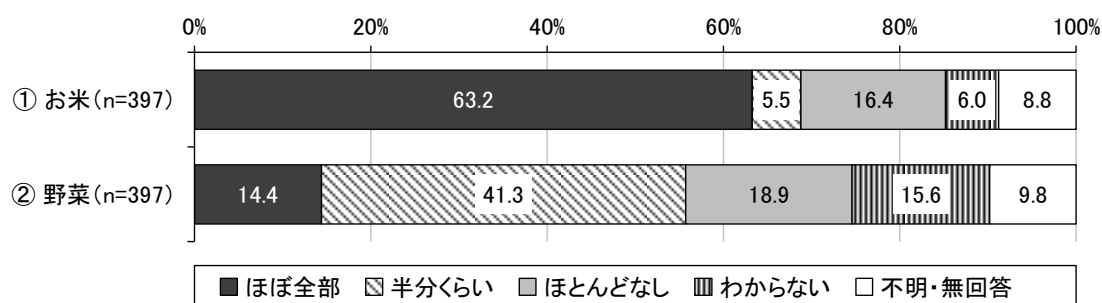
「加西市産の農産物を見かける機会が少ない」が48.3%と最も高く、次いで「産地はどこでもよい」が37.7%、「その他」が12.3%となっています。



⑤ 1年間に消費するお米・野菜のうち、加西市産農産物の割合

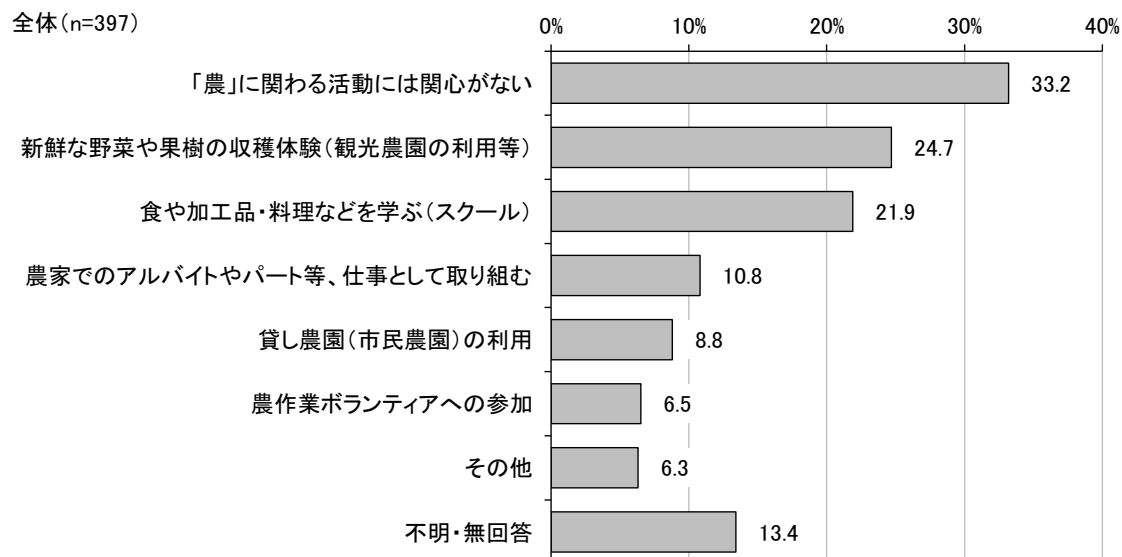
※人からもらうもの、家庭菜園・自家栽培を含みます

① お米では「ほぼ全部」が63.2%と最も高く、次いで「ほとんどなし」が16.4%、「わからない」が6.0%となっています。また、② 野菜では「半分くらい」が41.3%と最も高く、次いで「ほとんどなし」が18.9%、「わからない」が15.6%となっています。



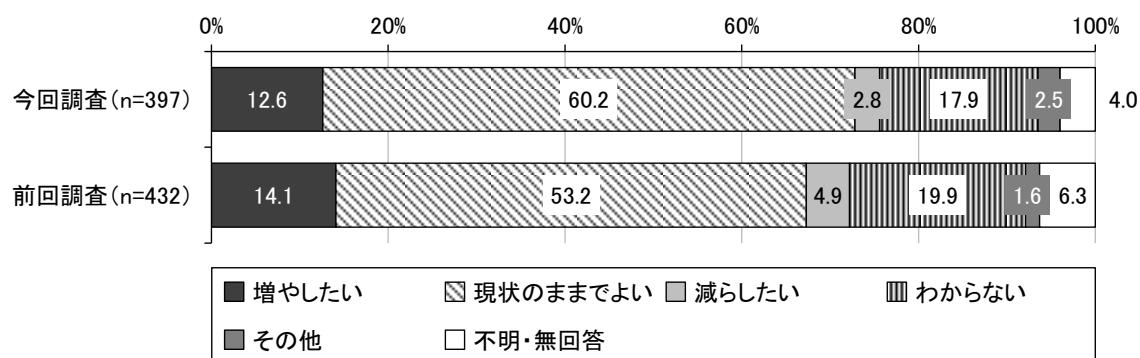
⑥ 「農」に関わる活動について、今後、加西市内でやってみたいもの、または関心のあるもの

「『農』に関わる活動には関心がない」が33.2%と最も高く、次いで「新鮮な野菜や果樹の収穫体験（観光農園の利用等）」が24.7%、「食や加工品・料理などを学ぶ（スクール）」が21.9%となっています。



⑦ ふだんの生活で、今以上に農業や菜園活動に触れる機会を増やしたいか

「現状のままでよい」が60.2%と最も高く、次いで「わからない」が17.9%、「増やしたい」が12.6%となっています。

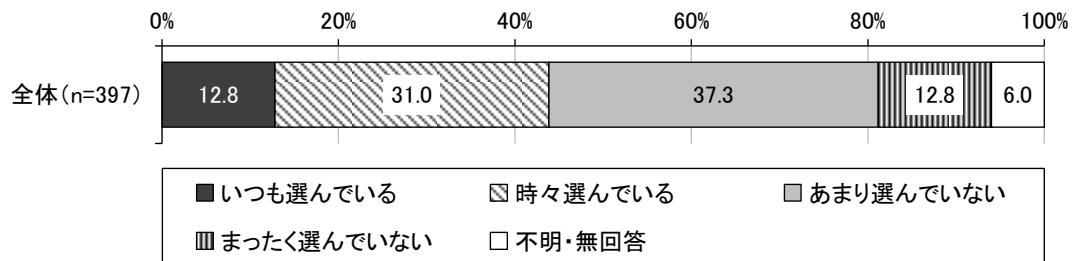


6. 環境への配慮について

① 日頃から環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいるか

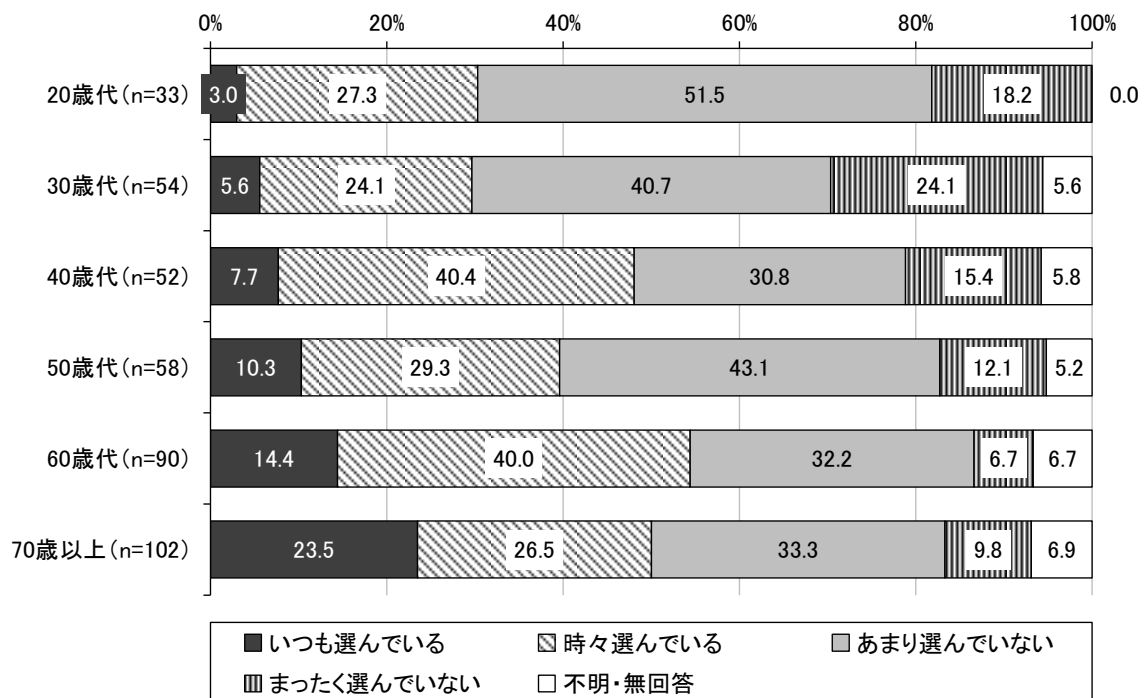
「あまり選んでいない」が37.3%と最も高く、次いで「時々選んでいる」が31.0%、「いつも選んでいる」「まったく選んでいない」が12.8%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「いつも選んでいる」が高くなっています。



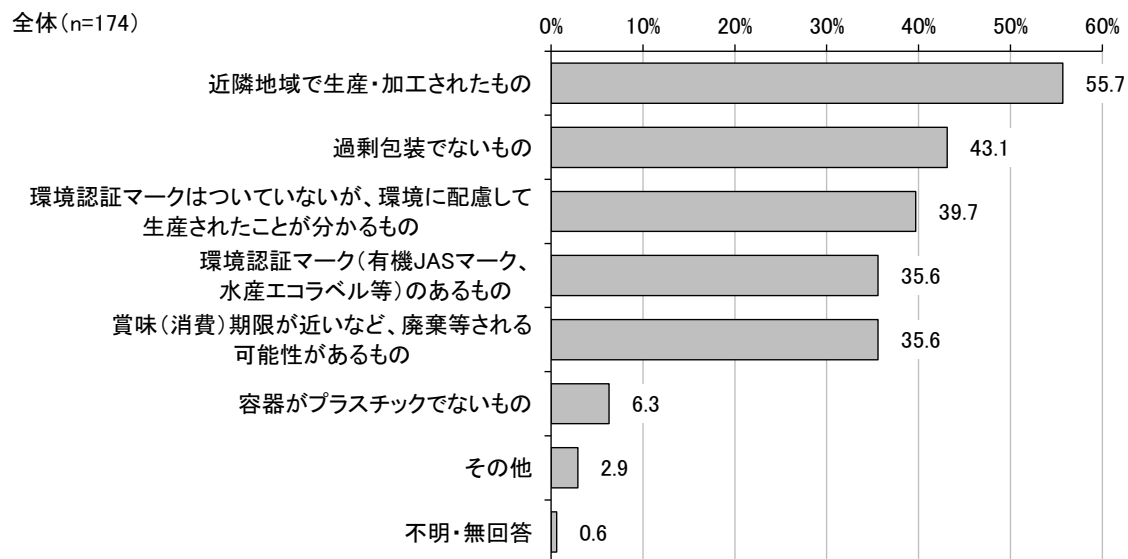
※環境に配慮した農林水産物・食品とは、農薬や化学肥料に頼らず生産された有機農産物や、過剰包装でなくごみが少ない商品など、環境への負荷をなるべく低減した農林水産物・食品のことです。環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶことは、持続可能な食料システム（フードシステム）の構築につながります。

【年齢別】



② どのような環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいるか

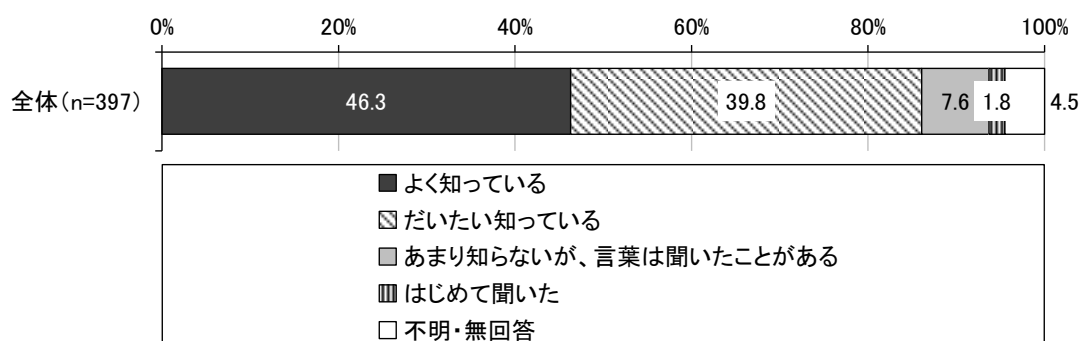
「近隣地域で生産・加工されたもの」が55.7%と最も高く、次いで「過剰包装でないもの」が43.1%、「環境認証マークはついていないが、環境に配慮して生産されたことが分かるもの」が39.7%となっています。



③ 「食品ロス」という言葉の認知度

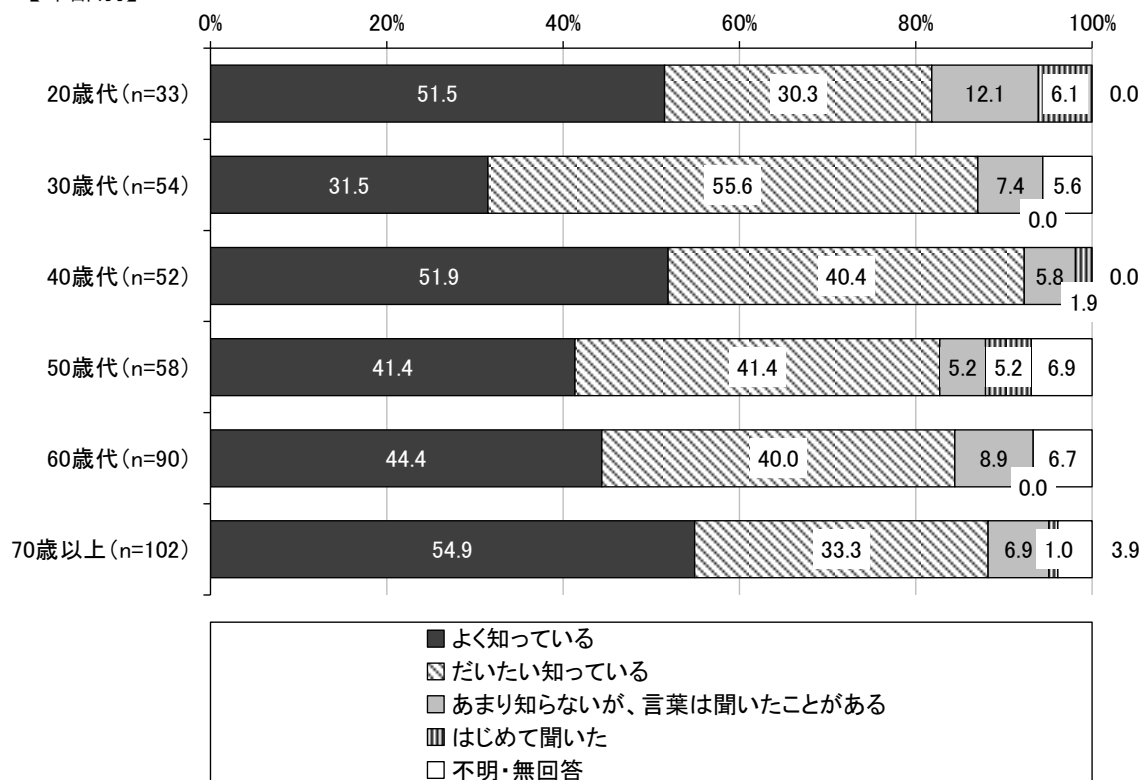
「よく知っている」が46.3%と最も高く、次いで「だいたい知っている」が39.8%、「あまり知らないが、言葉は聞いたことがある」が7.6%となっています。

年齢別にみると、30歳代では「よく知っている」が他の年齢と比べて低くなっています。



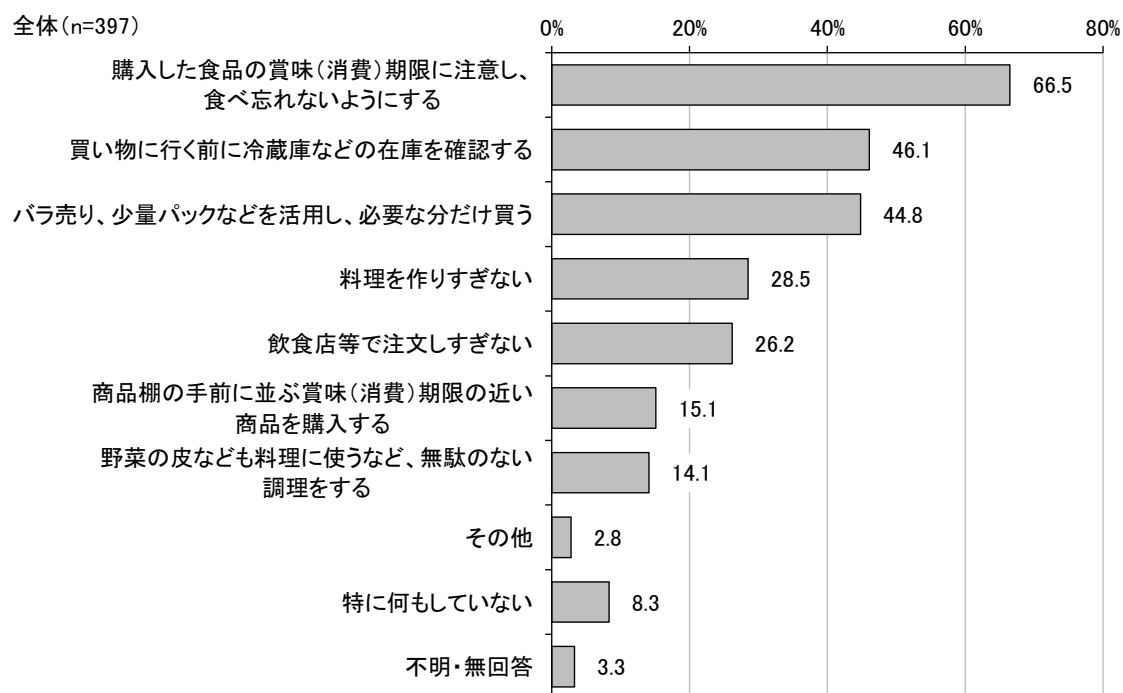
※「食品ロス」とは、食べられるのに捨てられてしまう食品をいいます。食品ロスは、日本で年間約 522 万 t（国民 1 人 1 日あたり茶碗 1 杯分）発生し、その約半数が家庭から発生しています。

【年齢別】



④ 家庭で「食品ロス」を減らすためにしていることはあるか

「購入した食品の賞味（消費）期限に注意し、食べ忘れないようにする」が 66.5%と最も高く、次いで「買い物に行く前に冷蔵庫などの在庫を確認する」が 46.1%、「バラ売り、少量パックなどを活用し、必要な分だけ買う」が 44.8%となっています。



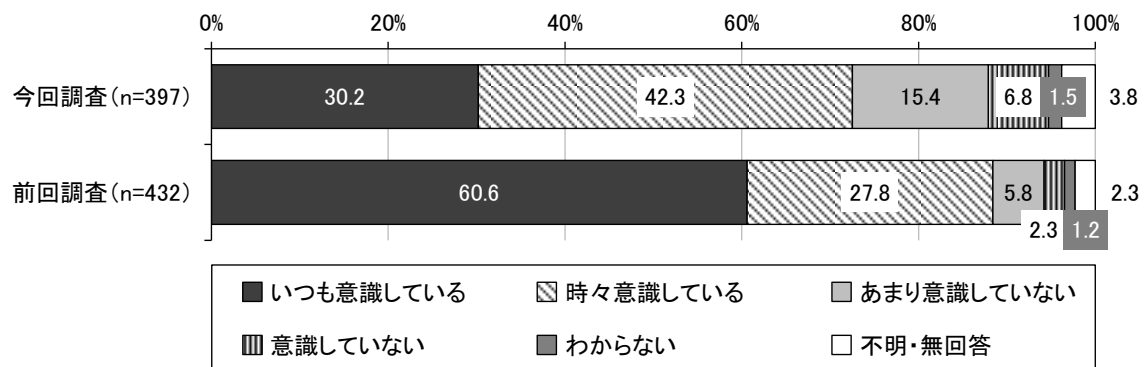
7. 食の安全性について

① 食品を購入する時、食品表示を意識しているか

食品表示を意識しているかについてみると、「時々意識している」が42.3%と最も高く、次いで「いつも意識している」が30.2%、「あまり意識していない」が15.4%となっています。

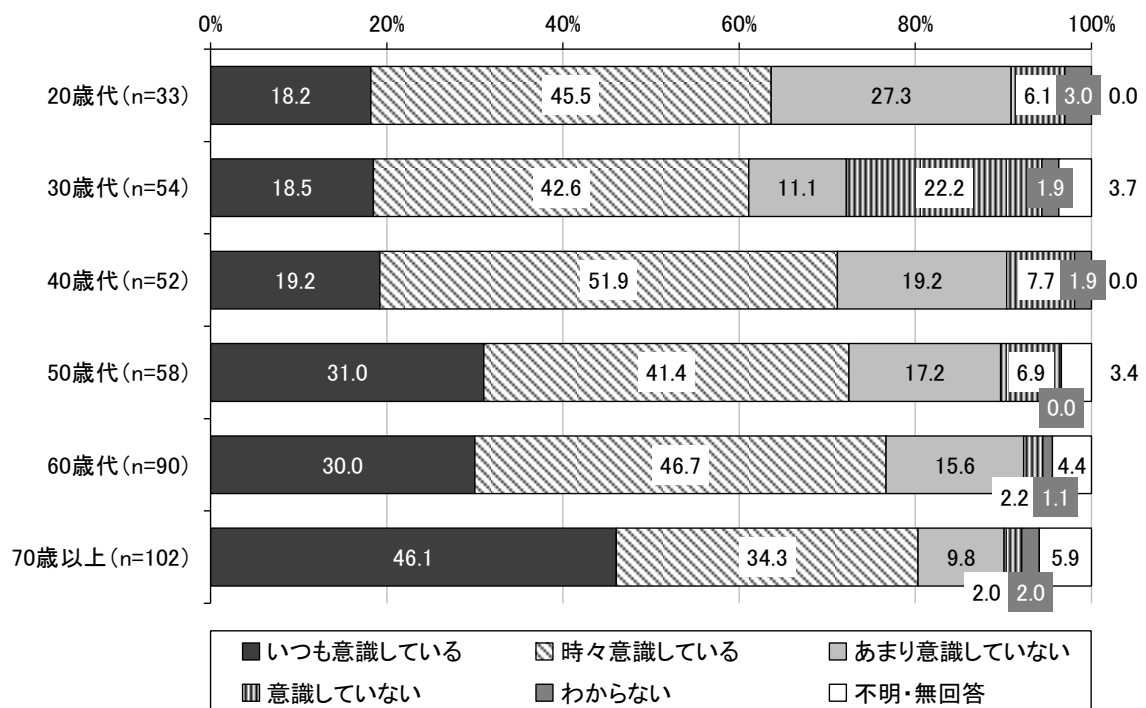
前回調査と比較すると、「いつも意識している」が30.4ポイント減少しています。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「いつも意識している」が高くなっています。



※前回調査の選択肢「いつも意識して購入している」「時々意識して購入している」「あまり意識して購入していない」「意識して購入していない」「わからない」

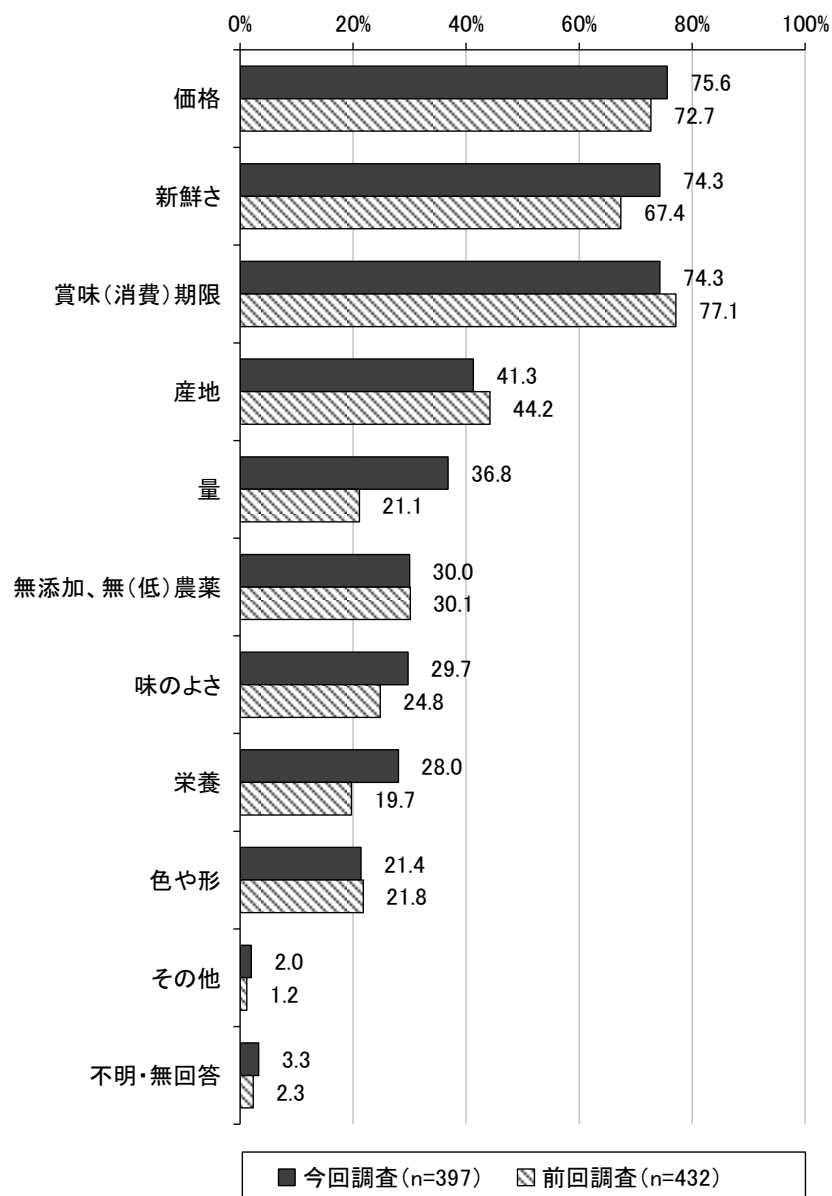
【年齢別】



② 食品を買う時にどのような点を重視しているか

「価格」が75.6%と最も高く、次いで「新鮮さ」「賞味（消費）期限」が74.3%、「産地」が41.3%となっています。

前回調査と比較すると、「栄養」が8.3ポイント、「新鮮さ」が6.9ポイント、「量」が15.7ポイント増加しています。

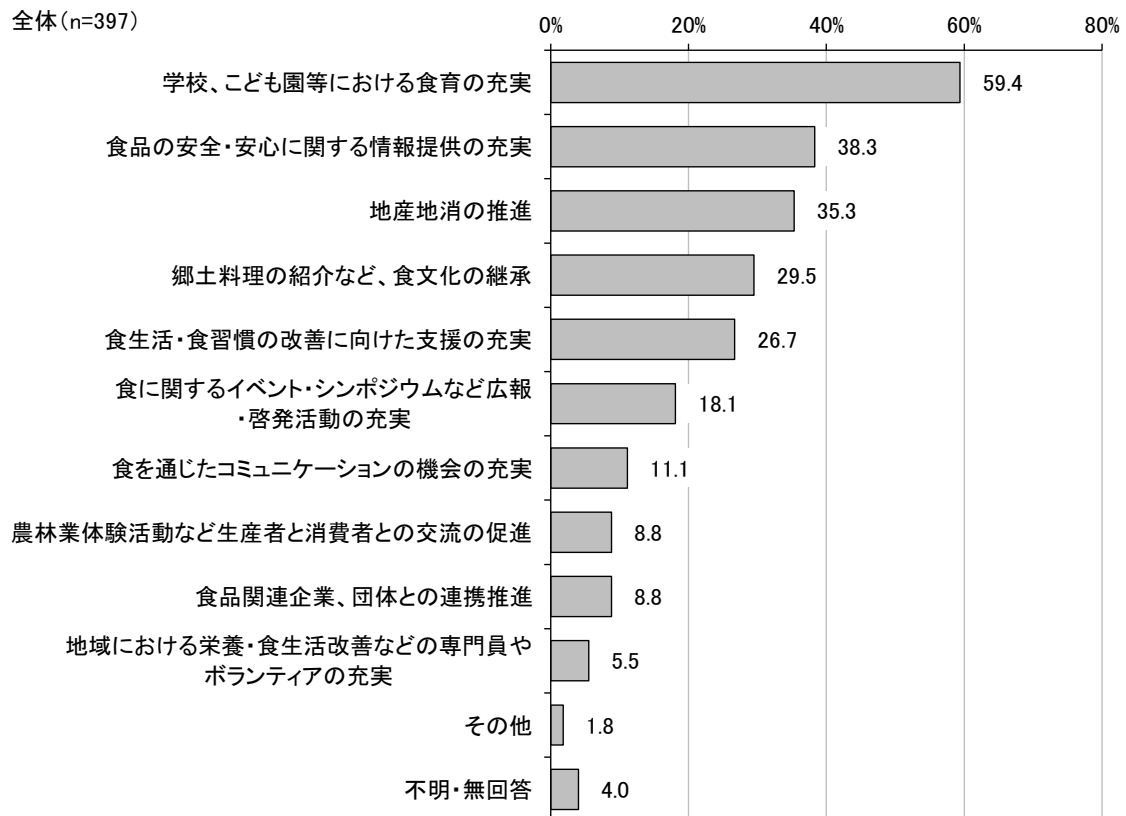


※選択肢「賞味（消費）期限」は前回調査では「賞味期限」

8. 加西市の取り組みについて

① 今後、食育を推進する上で必要と思われる市の施策

「学校、こども園等における食育の充実」が59.4%と最も高く、次いで「食品の安全・安心に関する情報提供の充実」が38.3%、「地産地消の推進」が35.3%となっています。



第 3 次加西市食育推進計画

発行：令和 5 年 3 月

加西市 健康福祉部 健康課

〒675-2303 加西市北条町古坂 1072-14

TEL：0790-42-8723

FAX：0790-42-7521



加西市こども未来課
Instagram



加西市学校給食
Instagram